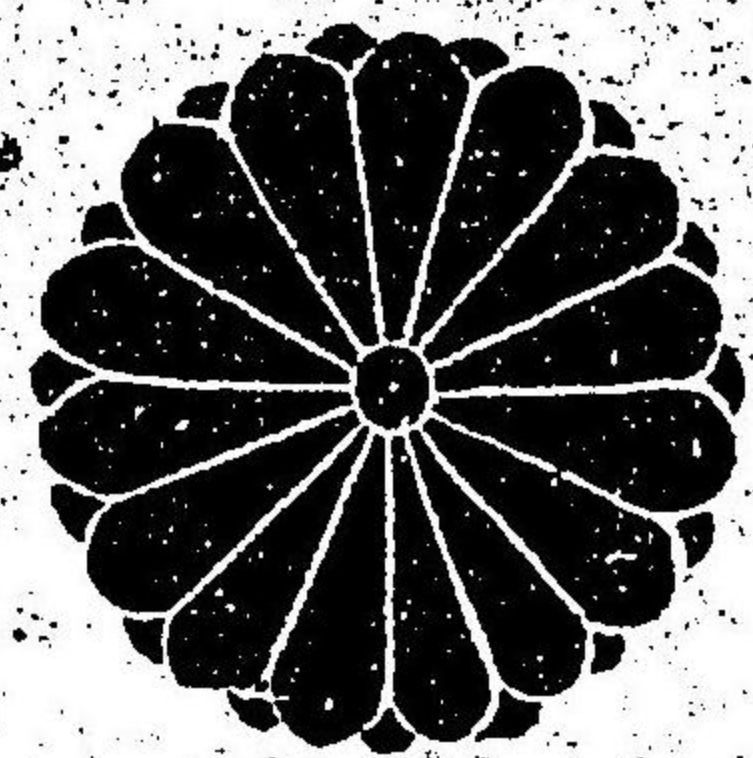


法學士津田瀨磨君擇  
法學士市川勝之助君序  
法科大學 神山亨太郎君編纂

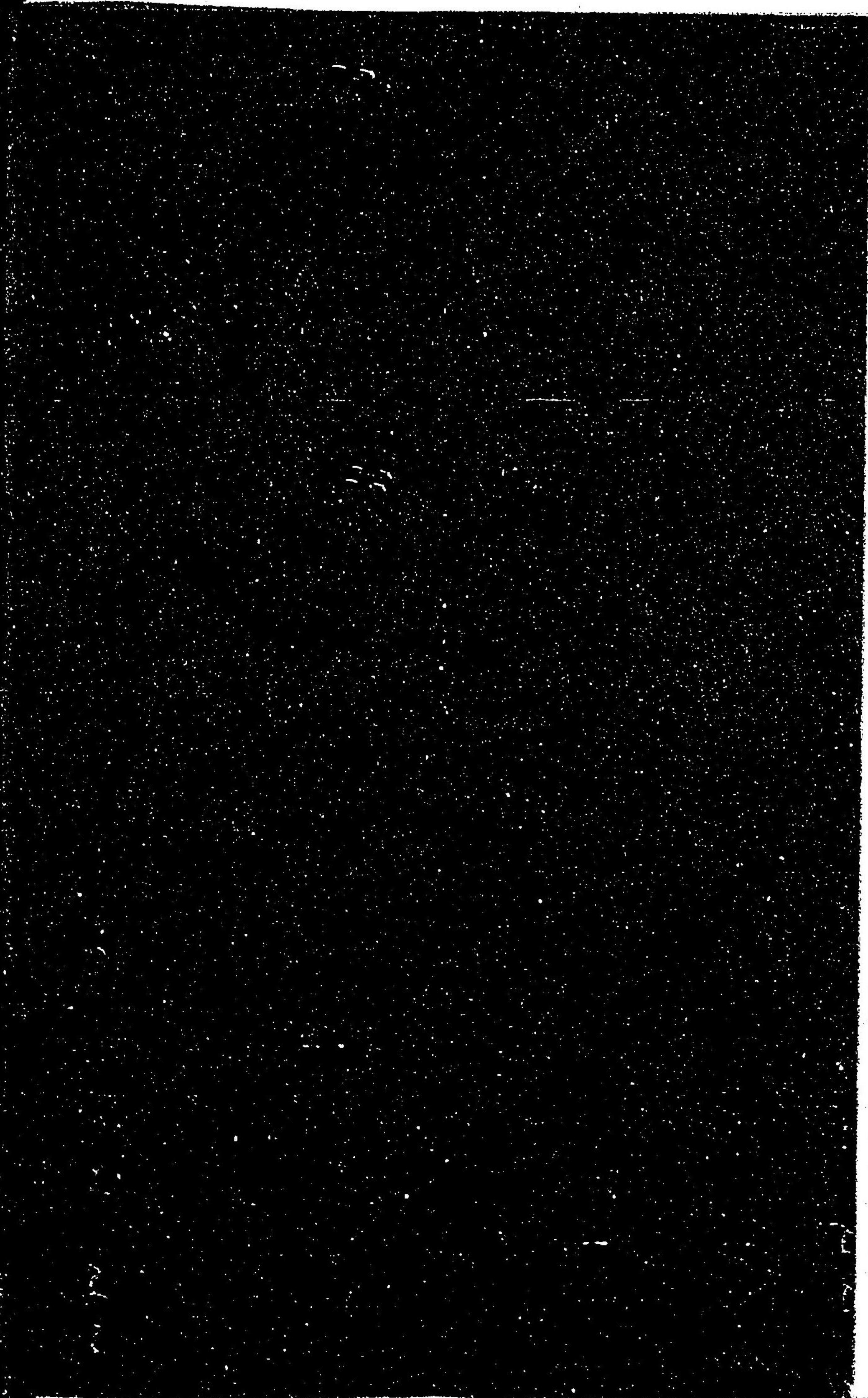
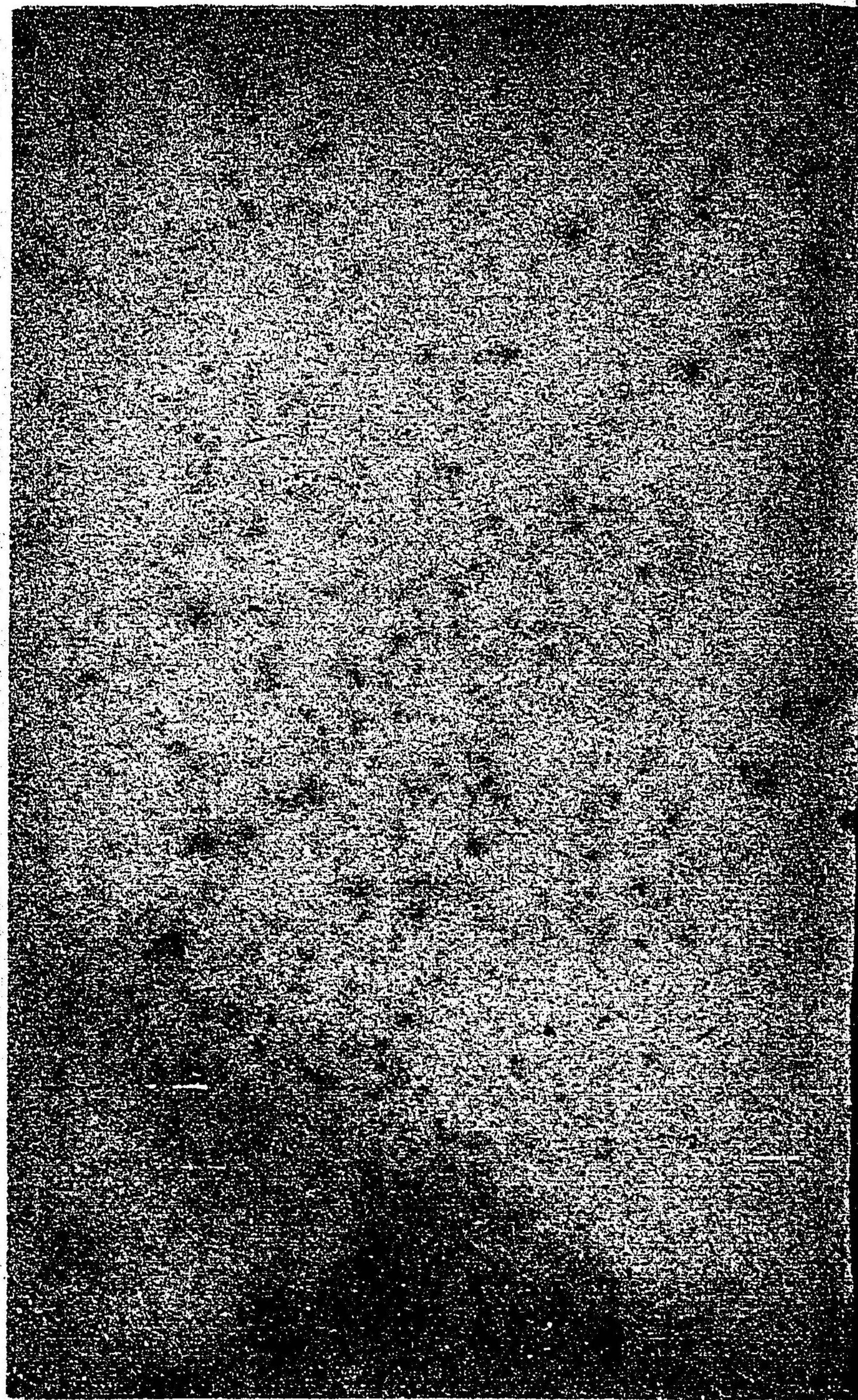


# 大日本帝國憲法全

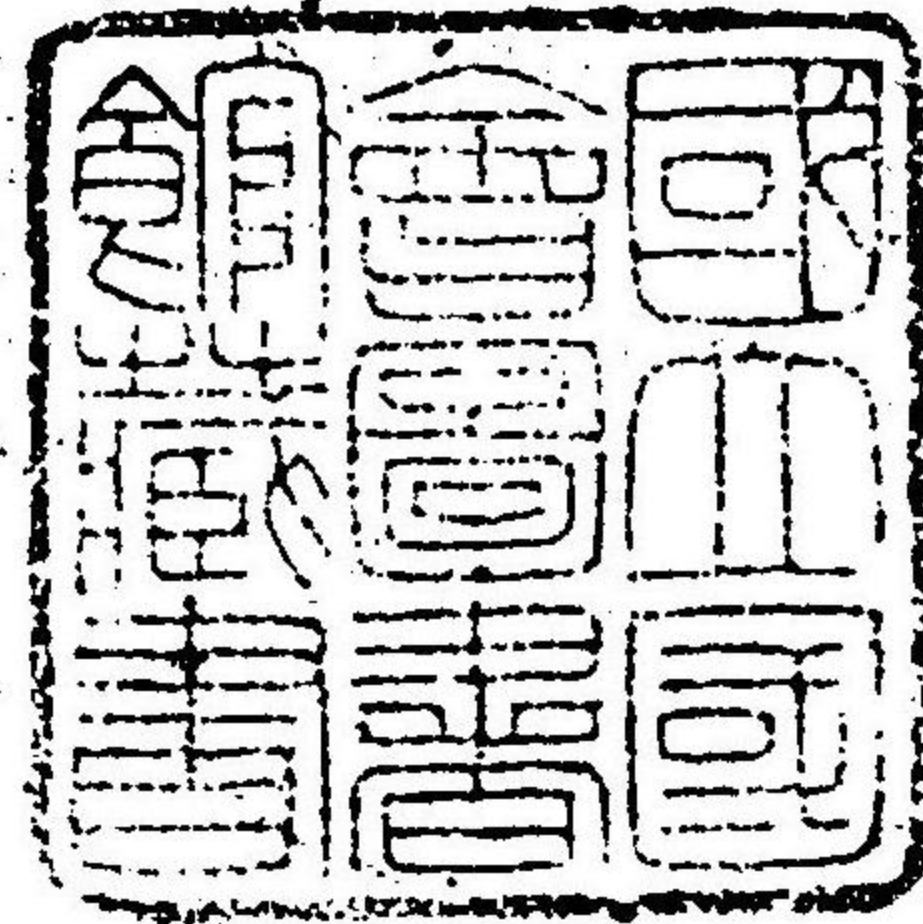
及各國憲法對照比較  
議院法  
衆議院議員選舉  
會計法  
貴族院令

東京  
警

松成堂發兌



323.3 Ka 299d



336983

緒言

神聖ナル大憲法ハ二月十一日一記念スベキ二月十一日ヲ以テ  
 燦メル其光輝ヲ吾人帝國臣民ノ上ニ播布セリ我が三千九百萬  
 ノ兄弟姉妹ハ實ニ優渥ナル聖恩ヲ感戴シ歡喜雀躍シテ陸  
 下ト陛下ノ知シ召ス大御代ノ萬歳ヲ慶賀シ奉レリ不肖亦幸ニ  
 生テ此聖世ニ逢フ安ソソ我同胞諸子ト共ニ 兩皇陛下ノ至  
 仁大徳ヲ頌シ奉ラザランヤ  
 天皇陛下萬歳萬歳萬々歳！  
 皇后陛下萬歳萬歳萬々歳！

客アリ來ツテ曰ク子ハ幸ニ學ニ法海ニ浮沈スルノ人ナリ宜ク  
 憲法ヲ説明シテ普ク立憲政治ノ眞体ヲ知ラシムヘシト余答ヘ

二  
テ曰ク諸余ノ之ヲ欲スル實ニ久シ而シテ余ガ欲スル所ノ者ハ  
余ガ最爲スニ苦ム所ノ者ナリ夫レ憲法ノ事タルヤ國家經綸ノ  
基礎政体無窮ノ大本一朝一夕ニシテ能ク説キ尽スベキニ非ル  
ナリ學識ニ富ミ研究ニ精ナル政法専門ノ學士ガ數年潛心ノ結  
果ヲ以テスタ未ダ遂ニ足レリト爲スベカラズ況ンヤ余ガ識薄  
ク才乏キニ於テチヤ且ツ余ハ學生ニシテ著述家ニ非ズ安クソ  
ツ筆下千言立ニ生ズルノ敏捷快活ナル説明ヲ以テ觀者ノ貪心  
ヲ飽カシムルヲ得ンヤ事實ニ大ナリ一責最重シ敢テ辭セン然  
リト雖余モ亦帝國ノ一民ナリ 聖旨ヲ奉戴シ眞理ヲ攻究スル  
ニ於テ敢テ怠惰ナルヲ能ハズ將ニ數月ノ研磨ヲ以テ學理的ノ  
説明ヲ下サント欲ス余ハ只今日ニ於テ余ガ調査シ來リシ所ノ  
各國憲法ニ付キ其異同ヲ對照シテ讀者ノ便覽ニ供セントスル

ノミ解釋ノ任ハ一ニ之ヲ先輩諸君ニ委ス其意蓋シ深シ吁色モ  
香ヲモ知ルル人ヲ知ルヲメ客曰ク善シト記シテ以テ緒言トナス

明治廿二年二月

鐵劍 神山亨太良記

大日本帝國憲法 各國憲法對照比論

天照大神ノ御稜威ト神日本磐余彥尊ノ御勳業ト天高御座  
 ノ上ニ享ケ玉ヒ我豊芦原大八洲ヲ知レ召シ玉フ掛卷モ絞ニ  
 賢キ 允文允武維聖維哲聰明仁慈皇帝陛下ニ隨マセ玉ヘ  
 功伊尹ニ配シ績呂尙ニ并ビ陰陽ヲ調理シ乘釣ヲ翼贊シ道  
 ナ正シ賢ヲ舉ゲ蹇々諤々王事ニ勤ムルノ賢相明臣下ニ仕フ  
 マツリ五風十雨其時ヲ違ヘズ春暖秋冷其候ヲ誤ラズ鳳凰舞  
 ヒ麒麟遊ヒ瑞雲變キ甘露降ル中洲ノ民草ハ云フモ更ナリ南  
 ハ琉球ノ嶋人ヨリ北ハ千嶋ノ蝦夷ニ至ルマデ安ラケク平ラ  
 ケキ大御代ノ恩澤普ク灌ギ渡リテ濕サマル遇モホク廣ク輝  
 カシ來リテ照ラサル隈モナシ壤ヲ擊テ舞ヒ腹ヲ鼓キテ謡  
 フ樂陶々喜洋洋實君が代ハ千代八千代天ト共ニ長ク地ト共

ニ久シカラン

六

曩ニ御即位ノ初明治元年三月十四日ヲ以テ五ヶ條ノ御誓文  
ヲ皇天后土ニ捧ケ玉ヒ万機ヲ宇内ノ公論ニ決メ國是ヲ天地  
ノ公道ニ進ムルノ基ヲ開キ玉ヘリ  
次テ明治八年四月十四日ノ詔諭ヲ以テ元老院ヲ設ケテ立法  
ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キテ審判ノ權ヲ鞏クシ以テ立憲政体  
ノ端ヲ定メ玉ヘリ  
降リテ明治十四年十月十二日ニ至リ明治廿三年ヲ期シテ國  
會ヲ開設スベキノ勅諭ヲ帝國ノ臣民ニ降シ漸ク以テ基ヲ創  
メ序ニ循ヒテ歩ヲ進ムルノ道ニ由リ在廷ノ臣僚ニ命シ時日  
ヲ假シテ以テ經畫ノ責ニ當ラシメタマヘニ

維時明治廿二年二月十一日神武天皇即位紀元二千五百四十

九年一國會ノ開設ニ先ツ正ニ一年一恐レ多クモ陛下ト  
共ニ臣等カ待テニ待テ設ケシ神聖ナル我大憲法ハ神明ノ表  
章皇室ノ干城政体ノ大本國家ノ基礎經綸ノ寶典權利ノ堡塞  
ナル我大憲法ハ空前絶後ノ盛式ヲ以テ公布セラレタリ於茲  
乎立憲政治ノ大本實ニ茲ニ定マレリ臣等只涙ヲ以テ優渥ナ  
ル聖恩ヲ謝スルノ外亦爲スコアルヲ知ラザルナリ吁臣等ガ  
至幸至福果シテ如何ゾヤ

臣謹ンデ按スルニ宇内國頗多ク歲月亦久キヲ歴タリ然レモ  
試ニ青史ヲ緝キテ眼中ニ經過シ來レル者ヲ舉グレハ三千年  
間國体ト皇統ト共ニ連綿獨立ト威武ト共ニ赫々萬世不朽金  
甌無欠ノ大帝國ハ果シテ幾何カアモ否何レノ所ニカアル唯  
一アルベクシテニアルベカラス是實ニ列聖在天ノ靈ト天皇

七

至仁ノ澤トニ基ス故ヲ以テ其民ハ最忠君愛國ノ氣慨ニ富ミ  
 内ハ身ヲ勤王ノ事ニ殉シ外ハ蠻夷ノ輕侮ヲ受ケズ最爾タル  
 一小孤嶋ヲ以テ今日天下ノ強國ニ對シ揚々トシテ旭日ノ旗  
 章ヲ芙蓉峯頭ノ風ニ翻ヘス者ハ果シテ君ト民ト神ト人ト相  
 合スルノ致ス所ニ非ズシテ何ゾヤ吁我帝國ハ唯一アルベク  
 シテニアルベカラズ

立憲政体ハ各政体中ニ於テ最善美ヲ極ムル者ナリ故ニ宇内  
 ノ大勢ト自然ノ進化トハ天下ノ邦國ヲ導キテ一ニ此点ニ湊  
 合セシム然リト雖人事ハ常ニ意ノ如クナラズ天心亦計リ難  
 シ此善美ナル純潔ナル淡白ナル美麗ナル想像ノ樂土ヲ得ン  
 ガ爲ニ古來數億ノ人民ハ熱血ト紅涙トノ資本ヲ抛チテ漸ク  
 一之ヲ購ヒ得レリ見ヨ天下ノ歴史ハ立憲政ノ歴史ナラサル

ナク立憲政ノ歴史ハ鮮血ノ歴史ナラザルナシ英國ノ憲法モ  
 國家多難ノ際ニ生シ佛國ノ憲法モ君民軋轢ノ余ニ起リ讀者  
 チシテ遂ニ人生之事我豈忍言哉ノ嘆聲ヲ發セシム而シテ堂  
 ヲタル我日本帝國ノ大憲法ハ國家多難民心沸騰君臣軋轢ノ  
 結果ニナレル者ニアラズ否大内山ノ春常磐ニ深ク祥雲瑞々  
 トシテ宮闕ヲ包ミ久方ノ天日モ豊ケキ笑ヲ含メルノ日君臣  
 歡呼ノ間ニ於テ授受ヲ恭シクシタル者ナリ皇天后土惠チ此  
 國ニ垂ル、一ニ斯ノ如シ吁我帝國ハ唯一アルベクシテニア  
 ルベカラズ

是ニ因リテ之ヲ見レハ我帝國ノ歴史ハ宇宙間真正ノ歴史ナ  
 リ立憲政治真正ノ歴史ナリ善ト徳ト及ヒ美トチ大成セタル  
 真正ノ歴史ナリ而シテ臣等ハ此光輝アル價值アル歴史中ノ

一民ナリ豈人生ノ至福ト云ハザルヲ得ンヤ  
其レ然リ臣等同胞ガ今日此至福ヲ味フ所以ノ者ハ實ニ其源  
チ國體ノ完美ト皇室ノ大仁ト及ビ今上ノ德化ニ歸シ奉ラ  
ザルヲ得ズ

聖壽無窮國祚萬歲萬々歲!!!

敢テ首ヲ回ラシテ我同胞諸子ニ告ゲン諸子ハ彼佛國人民ナ  
ル者ノ歐州ニ存在スルヲ知ラシ佛國人民ハ輕佻ナル人民ナ  
リ浮噪ナル人民ナリ貪リテ飽クナキノ人民ナリ臆ヲ得テ獨  
チ望ムノ人民ナリ架空癖ノ人民ナリ空中樓閣ヲ築クノ人民  
ナリ故チ以テ九十余年間ニ憲法ヲ改正スルヲ二十一回政体  
ヲ幸更スルヲ六度主權者ノ交代十數度吁是同ク立憲國ノ人  
民ナリ而シテ佛民ノ急激ナル斯ノ如ク豈夫レ立憲政ノ眞旨

ヲ嘗ムルト謂フヲ得ンヤ

諸子ハ熱心ナル進歩ノ友人ナリ銳意ナル改革ノ健兒ナリ愛  
國ノ殉難者タリ俠義ノ先導家タリ理想ニ豐富ナル學者タリ  
王事ニ奮起スルノ軍人タリ法律ノ忠僕タリ政治ノ愛子タリ  
故チ以テ今日拜受シタル憲法ハ握持シテ決シテ失ハザルベ  
シ憲法ノ範圍内ニ於テ活潑快活ナル運動ヲ試ミルニ怠ラザ  
ルベシ憲法ノ生力ヲ増加スルニ於テ一步ダモ退カザルベシ  
是余ガ信シテ疑ハザル所ナリ  
然リト雖天ノ未タ雨ラザルニ先チ窓戶ヲ綯繆スルハ策ノ最  
得タル者ニ非ズヤ今日ハ是レ政界ノ晴天ナリト云フト雖天  
象常ナシ安クソフ急雨ノ益ヲ覆ヘサザルヲ知ラシ是余ガ諸  
子ニ向ヒテ至誠ヲ胸中ニ敷カント欲スル所以ナリ



諸子ハ奮進意ノ人民ナリ彼所謂温厚着實ノ資格ハ諸子ガ  
 最得意トスル所ヲ言テ更ヘテ之ヲ云ヘバ或ル点ニ於  
 テ頗ル佛民ノ氣風ニ近シト云ハザルヲ得ズ何トナレハ英雄  
 崇拜ノ氣風アリ急激狂奔ノ氣風アリ奮ア時ハ怒濤ノ如ク靜  
 ナル時ハ春浪ノ如クナレバナリ見ヨ彼佛民ハ憲法アリト雖  
 或ハ奸雄少數ノ乘スル所トナリテ是ガ握持ヲ失ヒ或ハ暴民  
 多數ノ勢ヲ以テ是ガ根底ヲ覆ヘス時ニ失ヒ時ニ毀ツ常休  
 ルナリ何ヲ以テカ立憲政体ノ基礎ヲ確定スルヲ得ンヤ  
 余ハ諸子ガ將ニ斯ノ如クナルベシト云フニ非ズ又斯ノ如ク  
 ナラザルベシト云フニ非ズ一片ノ丹心唯其斯ノ如クナラザ  
 ルニ期望スルノミ

諸子夫レ力ヲヨヤ諸子ハ伶俐ナル人民ナリ情ヲ抑ヘ理ヲ進

ムルニ於テ何ノ難キヲカ是アテニヤ已ニ情ヲ抑ヘ理ニ進  
 ヲバ一公平無私ノ人民トナルヲ得バ憲法ヲ握持シ養成シ  
 之ヲシテ健康ナラシメ之ヲ肥滿ナラシメ膏力ト精神ト  
 ナシテ我其易々タルヲ知ルナリ力メヨヤ  
 諸子奮ヘヨヤ諸子

諸子夫レ力メヨヤ諸子ハ快活ナル人民ナリ自ラ立テ自行  
 ニ於テ我其決シテ人ニ屈セザルヲ知ル夫レ人ニ寄テ事ヲ爲  
 ス者ハ魂魅ト魍魎トノミ有爲諸子ノ如クニシテ決然奮起セ  
 ザルモノアテニヤ諸子ハ已ニ憲法ヲ拜受シヨリ若シ夫レ是  
 ニ於テ奮然トシテ起テカ國威頓ニ揚リ國權頓ニ張リ海外  
 諸國ヲシテ日本男兒ノ豪壯ニ服セシムルハ蓋シ日ヲ期シテ  
 待ツヘキノミ力メヨヤ諸子奮ヘヨヤ諸子臣神山亨太良謹記

近世有名ナル憲法學者「マイセイ」氏ハ「憲法ハ主權ノ分配使用ヲ支配スル條規ナリ」ト云ヒ米國ノ學者「グーレース」氏ハ「憲法ハ主權ノ實行ヲ規定スル元素及條規ノ全体ヲ稱ス」ト云ヘリ故ニ憲法ハ國家主權ノ性質君主ノ權限官吏ノ職權人民ノ權利立法行政司法ノ職分ヲ規定シ治者被治者ノ關係ヲ正フスル者ナリ言ヲ更ヘテ之ヲ云ヘバ憲法ハ一國政体ヲ定ムル大本ノ條規ヲ云フ我大日本帝國憲法ハ即我が帝國ノ政体ヲ確定スル大本ノ條規ナリ

我憲法ハ制裁ナシ(各國ノ憲法ト均ク)制裁ナキヲ以テ憲法ハ法律ニ非ズト云フハ「オースチン」學派ノ誤謬ナリ

我憲法ハ成文憲法ナリ完全ナル一個ノ法典ヲ形クレハナリ

我憲法ハ<sup>エナクテ、コンスタント、エシヨシ</sup>制定憲法ナリ(學士「リーベル」氏ノ區別ニ從フ)英人「マックイントン」ノ所謂「憲法ハ作爲シタル者ニ非ズ成長シタル者ナリ」トハ單ニ英國憲法ニ付テ之ヲ云フナリ我憲法ノ如キハ合衆國或ハ獨逸ノ憲法ト共ニ立法者ノ制定ニカ、ル者ナリ

我憲法ハ固定憲法ナリ固定憲法トハ其制定變更廢止等が通常立法ノ手段ニ依ラザル者ヲ云フ我憲法第七章七十三條ヲ見ヨ憲法改正ノ議案ハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ニ付スルノ明文アリ合衆國及獨逸ノ憲法モ亦固定憲法ナリ

我憲法ハ欽定憲法ナリ 天皇陛下自ラ勅裁シ玉フヲ以テナリ

新憲法ニ因リテ確定サレタル我帝國ノ政体ハ單純ナル立憲君主政体ナリ而シテ其國体ハ單純ナル獨立國ナリ立憲政体

ノ基礎茲ニ確定ス吾人何ツ亦慶賀セザルヲ得ソヤ謹ク我憲  
 法ノ條文ヲ舉ゲテ之ヲ各國ノ憲法ニ對照セントス  
 合衆國ハ純粹ノ共和政ニシテ立君之國ト頗其趣ヲ異ニス故  
 ニ之ヲ畧ス  
 英國憲法ハ已ニ大<sup>イッナカ</sup>約書權利請願書等ノ廣ク世ニ頒布セラレ  
 、アリ故ニ之ヲ畧ス  
 佛國憲法ハ實ニ數回ノ變革ヲ經タリ悉ク之ヲ對照スルハ頗  
 ル難シ故ニ之ヲ畧ス  
 各國法ハ其最我條文ニ近接シタル者ヲ舉ゲテ異同ヲ示スニ  
 止ルノミ相同キ者ヲ參照スルノ謂ニアラズ  
 著者近日憲法ノ註釋ヲ一著者ガ研究セルダケノ範圍ニ於テ  
 一試ミル所アラントス此書ハ只準備ヲ示スニ止マル

# 告 文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚  
 ナ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局ノ惟  
 運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ  
 率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ  
 益々國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室  
 典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シ

テ朕カ窮ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章  
ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾クハ  
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

### 憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承  
クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布  
ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ  
肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト竝ニ臣  
民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成  
跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナ  
ルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ  
益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラ  
シムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサレナ  
リ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承テ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿徳良能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セシムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜チ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘシ朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黒田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 逓信大臣 伯爵榎本武揚

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ繼治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

伊太利 第二條 伊太利國ハ立憲政體ニ由テ統治ス王位ハ「サリオン」(女子ニ王位ヲ傳ヘ

サルノ法)ノ法ヲ以テ男統世襲トス

葡萄牙 第四條 政府ハ立憲世襲君主制トス

白耳義 第六十條 國王ノ定權ハレオホル、シヨルシー、ギレテヤン、ブレデリクト、サクス

ゴブールク陛下ノ直統本生私生ヲ論セス太宗ノ序ニ依リ累々相傳ス而メ女子及

ヒ女子ノ子孫ハ永久位ヲ踐ムヲ得ス

丁抹 第一條 丁抹國ハ立憲政體ニシテ其王位ハ世襲トシ繼承ノ順序ハ一千八百五十三年七

月三十一日ニ制定シタル法律ノ第一條及ヒ第二條ニ據ル

普魯西 第五十三條 王位ハ王族法(別ニ王族ニ定メタル法律アリ)ニ循テ長子相續ノ順序

ニ依リ次ニ最近傍系親繼承例ニ從ヒ男統世襲トス

第三條 天皇神聖ニシテ侵スヘカラス

西班牙 第四十二條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可ラス又責任ヲスル所ナシ故ニ其責任ハ

大臣ニアリ

普魯西 第四十三條 國王ノ身體ハ侵スヘカラザル者トス

墾地利 第一條 皇帝ハ神聖ニシテ侵ス可ラス又責任ヲ負ハズ

白耳義 第六十三條 國王ノ身ハ侵ス可ラサル者トス而シテ其責任ニハ國王ノ諸大臣之ニ任

ス

葡萄牙 第七十二條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可ラス又責任トスル所ナシ

丁抹 第十二條 國王ハ責任ヲサル者トス●國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可ラサル者ト

リ●大臣ハ責任ヲスヘキ者トス●大任ノ責任ハ一ノ法律ニ由テ之ヲ定ム

和蘭 第五十三條 國王ハ侵害ス可ラス大臣獨リ其責任ヲ任ス

伊太利 第四條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可ラサル者トス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

丁抹 第十一條 國王ハ憲法ニ定メタル範圍内ニ於テ最上ナル威權ヲ有ス其威權ハ大臣ニ

由テ之ヲ行フ

墾地利 第二條 皇帝ハ責任ノ大臣及ヒ之ニ隸屬スル官吏ニ依テ大政權ヲ行フ

普魯西 第四十五條 行政權ハ國王一人ニ屬ス●國王ハ諸大臣ヲ任免ス●國王ハ法律ノ頒

布ヲ命シ而シテ其施行ノ爲メニ要用ナル規則ヲ發ス

葡萄牙 第七十一條 節制權ハ總テ國家制度ノ鎖論ナルガ故ニ常ニ他ノ諸大權(司法行法

立法ノ權等)ノ不羈均等調和ノ保存ヲ監督スルカ爲メニ特ニ之ヲ國民ノ首長ト

ル國王ニ歸セリ

伊太利

第五條 行政權ハ國王一人ニ屬ス國王ハ全國ノ首長ニシテ海陸軍ヲ指揮シ宣戰講和同盟貿易等ノ條約ヲ結フ然レモ國益及ヒ國安ニ關スル條約ハ豫メ兩院ニ報知シ且其理由ヲ附スヘシ●國財ヲ費シ若クハ國疆ノ變改ニ關スル條約ハ兩院ノ承認ヲ得ルニ非レハ其効力ヲ有セズ

第五條

天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條

天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

白耳義

第六十九條 國王ハ法律ヲ裁可シ及ヒ公布ス

和蘭

第一百十五條 國王及ヒ國會ノ承允シタル法律議案ハ和蘭國法ト成ル而シテ國王之ヲ公布ス此國法ハ侵ス可ラズ

普魯

四十五條 出前

獨逸

第十七條 帝國ノ法律ヲ命令シ之ヲ布告シ又ハ其法律ノ施行ヲ監督スルノ權ハ皇帝ニ在リトス凡テ皇帝ノ命令及規則ハ帝國ノ名義ヲ以テ布告ス而シテ其効力ヲ有スル爲メ大宰相ノ捺印ヲ必要トス之カ爲メ大宰相其責ニ任ス

西班牙

第四十四條 國王ハ法律ヲ裁可シ及ヒ之ヲ公布ス

埃地利

第十條 法律ノ公布ハ皇帝ノ名ヲ以テス但憲法ニ準シテ設置スル議院之ヲ承諾シ責任ノ大臣之ヲ副署ス

伊太利

第七條 國王ハ法律ヲ確定シ且ツ之ヲ布告ス

丁抹

第二十四條 兩院ノ決定ニ法律ノ効力ヲ有スル爲メニ國王ノ裁可ヲ得ルヲ必要トス國王ハ法律ヲ布告シ又ハ法律ノ履行ヲ監督スルノ權ヲ有ス●兩院ニ於テ制シタル法律ノ草案ハ次ノ集會ニ至ル迄國王ノ裁可ヲ得サレハ其効力ナシトス

第七條

天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

獨逸

第十二條 皇帝ハ上院及下院ヲ召集シ且ツ之ヲ開閉及ヒ延會スルノ權ヲ有ス

丁抹

第十九條 國王ハ定規ニ依テ每歲兩院ヲ召集ス兩院ハ國王ノ許可ヲ得スシテ二个月以上集會スルヲ得ス●然レ右ノ集會ハ一ノ法律ニ由テ變化ス

同

第二十條 國王ハ豫メ時限ヲ定メテ特ニ兩院ヲ召集スル權ヲ有ス

同

第二十二條 國王ハ兩院或ハ一院ヲ解散スルノ權ヲ有ス國王兩院ノ一院ヲ解散スルニハ更ニ兩院ヲ召集スル迄ノ間他ノ一院ノ集會モ亦之ヲ延ハスヲ要ス而シテ此場合ニハ必ス二个月ノ間ニ更ニ復テ兩院ヲ召集スヘシ

白耳義

第七十條 兩院ハ毎年十一月第二ノ火曜日ニ之ヲ開クノ權ヲ有ス但シ其前ニ國王ヨリ徵集シタルト否トヲ諭セサルモノトス●兩院ハ毎年必ス四十日以上其會ヲ繼續スヘシ●國會ハ閉會ヲ宣告ス

同

第七十一條 國王ハ兩院ヲ同時ニ或ハ各別ニ解散スルノ權ヲ有ス解散ノ文書ニハ

四十日以内ニ撰擧人ヲ召集スルコト及ビ二月以内ニ議員ヲ召集スルコトヲ裁スベシ

和蘭 第九十九條 國王ハ兩院又ハ其一院ノ解散ヲ命スル時併テ國會ノ閉會ヲ命ス

普魯西 第五十一條 國王ハ兩院ヲ召集スルコト及ビ閉會スルコトヲ決ス ●國王ハ一時ニ兩院

ヲ解散シ或ハ其一ヲ解散スルコトヲ得 ●此時ハ國王必ズ解散ノ日ヨリ六十日ノ内

ニ撰擧人ヲ徵集シ而シテ九十日ノ内ニ議會ヲ召集スベシ

伊太利 第九條 國王ハ每歲兩院ヲ召集シ又ハ會期ヲ延ハシ或ハ下院ヲ解散スルコトヲ得但

シ解散シタルキハ其解散ノ日ヨリ四月内ニ更ラニ召集スベシ

和蘭 第七十條 國王ハ同時ニ又ハ別々ニ國會ノ兩院ヲ解散スルノ權ヲ有ス ●國會解散ノ

布告ト同時ニ四十日以内ニ新議院ノ撰擧及二月内ニ該議院ノ召集ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會開

會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ

將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スベシ

普魯西 第六十三條 若シ治安ヲ保スル爲メニ或ハ不意ノ凶災ノ爲メニ緊急ノ處置ヲ爲ス

ヲ要シ而シテ兩院ノ會マテ解散シタルキニ在テハ大臣總員ノ責任ヲ以テ下付シテ

ル勅令(國王ノ勅令)其憲法ト相反カサル者ハ法律ノ効力ヲ有スルコトヲ得但兩院

ノ次會ニ於テ其勅令ニ付キ必ズ兩院ノ同意ヲ得サルベカラス

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル

爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

普魯西 第四十五條 出前

白耳義 第六十七條 國王ハ法律施行ノ爲メニ要用ナル條例及ヒ命令ヲ作ルト雖モ法律ノ

施行ヲ停止シ及ヒ曲免スルヲ得ス

伊太利 第六條 國王ハ諸官員ヲ選任シ及ヒ法律ヲ執行スル爲メニ緊要ナル布告又ハ規則

ヲ制定スルノ權ヲ有ス然レモ法律ノ執行ヲ停止シ或ハ法律ノ違犯ヲ許可ス可ラ

ス

西班牙 第四十五條 國王ハ其憲法ニ依テ認許セラル、所ノ特權ノ外猶左ニ掲ル權ヲ執行

ス

第一 法律ノ執行ニ關スル勅令條例並ニ訓令ヲ下ス事 第二 至王國ニ於テ

ノ裁判ヲ監督シ及ヒ之ヲ看守シテ其決行ヲ充分ナラシムル事 第三 特赦ノ

權 第四 宣戰講和ノ權但之ヲ爲スノ後其必要ナル説明及ヒ文書ヲ國會ニ告

示セサル可ラス 第五 軍隊ヲ整備シテ便宜ニ之レヲ派遣スル事 第六

外國政府ト政治及ビ貿易上ノ交際ヲ爲ス事 第七 貨幣ノ鑄造ヲ指揮シテ自



己ノ肖像及ヒ名ヲ模寫セシムル事 第八 行政ノ各省ニ準備スル資金ノ用法  
ヲ命令スル事 第九 凡ソ官吏ヲ命シ及ヒ法律ニ依準シテ諸種ノ勳章ヲ賜フ  
事 第十 自由ニ大臣ヲ任免スル事

和蘭 第七十五條 國會ハ上院下院ヲ以テ成ル

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ  
他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル

伊太利 第六十五條 國王ハ諸大臣ヲ任免ス

丁林 第十三條 國王ハ大臣ヲ任免ス●國王ハ大臣ノ員ヲ定メ及ヒ政務ヲ分任ス法律及ヒ  
行政ニ付テノ決定書ハ國王及ヒ大臣ノ署名アルニ非レハ其効力ヲ有セス大臣ハ署  
名シタル決定書ニ付キ其責ニ任ス

同 第十七條 國王ハ諸ノ官吏ヲ任命ス然レ法律ヲ以テ之カ制限ヲ立ツルヲ得ヘシ而  
シテ國民ノ權利ヲ有スル者ニ非レハ官吏ニ任スルヲ得ス●文官武官トナシ憲法  
ヲ確守スヘキ誓詞ヲ宣フ●國王ハ任命シタル官吏ヲ免黜スルヲ得而シ官吏ノ退  
隱料ハ其法律ニ由テ之ヲ定ム●國王ハ官吏ノ諸否ヲ問ハス轉任ヲ命スルヲ得然  
レ轉任ニ因テ其俸給ヲ減スルヲ得ス右ノ官吏ハ其轉任ヲ承諾スルカ或ハ通例ノ  
規則ニ從ヒ退隱料ヲ得テ辭職スルカノ間ニ於テ自ラ之ヲ選フノ權アリ●第七十三

條ニ掲載スル場合ノ外諸ノ官吏ニ付テ種々格別ナル事件ハ一ノ法律ニ因テ之ヲ定

同 五十五條 出前

和蘭 第七十三條 國王ハ諸省ヲ設置シテ隨意ニ其長官ヲ任免ス●諸省長官ハ國王ニ屬ス  
ル執行ノ權限ヲ守リ憲法及ヒ其他法律ノ執行ヲ監督ス●諸省長官ノ責任ハ法律ヲ  
以テ定ム●凡ソ國王ノ決定及ヒ處分ニハ諸省長官ノ一人之ニ副署ス

白耳義 第六十五條 國王ハ諸大臣ヲ任免ス

同 第六十六條 國王ハ軍士ニ位階ヲ賜フ●國王ハ一切ノ政務官及ヒ外交官ヲ任命ス  
但シ法律ヲ以テ定ムル所ノ特例ハ此限ニ在ラス●其他ノ諸官ハ法律ノ明文ニ據  
ルニ非レハ國王ヨリ任命セス「司法官ノ類」

西班牙 出前

佛地利 第三條 皇帝ハ諸大臣ヲ任免ス且法律ニ於テ特ニ命スル所ナケレハ大臣ノ啓告ニ  
因リ政府各務ノ諸官吏ヲ進退ス

普魯西 第四十七條 國王ハ軍兵及ヒ他ノ諸部官ニ於テ凡ソノ官吏ヲ命スルノ權ヲ有ス但  
法律ヲ以テ特ニ定メタル者ハ此限ニ非ズ

同 第六十五條 國王ハ諸大臣ヲ任免ス

同 第六十六條 國王ハ軍士ニ位階ヲ賜フ●國王ハ一切ノ政務官及ヒ外交官ヲ任命ス但シ法律

獨逸 第十八條 皇帝ハ帝國ノ官吏ヲ命シ及ヒ帝國ノ爲ニ官吏ニ誓詞ヲ宣ヘシメ緊要ナル時機ニ於テハ之ヲ免黜スルノ權アリ●聯邦各國ノ官吏帝國ノ官吏ニ命セラレタル時帝國法律ニ於テ右ノ事件ニ付格別ナル規定アルニ非レハ帝國ニ於テモ其本國ニテ受ケタル官職ヨリ生スル一切ノ權利ヲ保持ス

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

普魯西 第四十六條 國王ハ軍事ノ長タリ

澳地利 三篇第五條 通國事務ノ管理ハ其責任ヲ負フタル通國事務大臣ニ委任スヘシ但該大臣ハ帝國ノ各部ニ特殊ナル事務ヲ兼掌スルノ權ヲ有セス●全國軍務ノ指揮及

編制ヲ規定スル權ハ特ニ皇帝ニ屬ス

和蘭 第五十八條 國王ハ海陸軍ヲ指揮シ武官ヲ任免ス但其昇級免黜若シハ退老ハ法律ヲ以テ定メタル例規ニ準シ國王之ヲ決ス●恩賜金ハ法律ヲ以テ規定ス

獨逸 第五十三條 帝國海軍ハ皇帝ノ指揮ニ屬ス皇帝ハ海軍ノ構制ヲ爲シ海軍ノ文官及武

官ヲ任命ス海軍ノ官吏及兵卒等ハ皇帝ニ對シ誓詞ヲ宣フヘシ●「キール」及「ヤー」ヲ「二港」ハ帝國ノ戰港トス●海軍ヲ設立シ及海軍ヲ保持シ及其他海軍ノ種々ノ

設立ニ關シタル費額ハ帝國ノ國庫ヨリ支給スベキ者トス●各國水夫等並ニ船ノ機關ニ關シタル人々又ハ造船場一切ノ職工ハ帝國ノ海軍ニ從事スルノ義務アルモ陸軍ニ從事スルノ義務ナシ●每歲海軍ニ徵募スベキ人員ノ比例ハ聯邦各國ニ現住ツタル水夫等ノ多寡ニ依ル者トス右ノ比例ニ從テ各國ノ海軍ニ備フル所ノ人員ハ陸軍ニ備フベキ人員ヨリ差引クヘシ

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

獨逸 第六十三條 獨逸帝國一般陸軍ハ戰爭ト平和トノ時ヲ問ハズ皇帝ノ指揮ニ屬スル唯一ノ陸軍ナリトス●總軍隊ハ各番號ヲ揭示スヘシ總シテ兵卒ノ衣服ノ色及其裁縫ノ仕方等ハ普魯西ノ陸軍ノ現ニ用フル服式ト同一ナルヘシ聯盟各邦ノ國君ハ其各邦ノ兵卒ノ用フル帽章及抽章等ヲ定ムルノ權アルヘシ●獨逸陸軍總隊ノ人員及軍備ヲ整フルヲ又ハ軍隊ノ編制ト士官及武器ヲ具備スルヲ又ハ練兵ノヲ又ハ士官等ノ學力ノ適否ヲ監シ且此等ヲ注意スルハ皇帝ノ義務ト權利トニ在ルナリ故ニ皇帝ハ何時ニテモ聯盟各邦ヨリ召募シタル軍隊ノ景狀ヲ檢閲シ而シテ其檢閲ノ時認メタル其不備ヲ整理ス可キヲ命スルノ權アル可シ●皇帝ハ聯盟各邦ヨリ召募スベキ軍隊ノ人員編制及其區分ヲ定メ而シテ豫備隊ノ編制及聯邦領地内ニ守備兵ヲ置キ又ハ帝國陸軍ノ總軍隊戰爭ノ準備ヲ命スルノ權アルヘシ●帝國陸軍一般ノ管轄ヲ爲

其兵卒ヲ養ヒ其武器ヲ備具スルノ同一ナランコトヲ望ムガ爲メニ其以後普魯西ノ軍隊ニ布告シタル一切ノ規則書ヲ第八條ノ第一項ニ記載スル所ノ陸軍及各所ノ城堡ノ事ニ關スル委員ヨリ聯盟各邦ノ軍隊ノ各將官ニ送致シ而シテ聯盟各邦ノ軍隊ハ之ヲ遵守スヘシ

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

普魯西 第四十八條 國王ハ宣戰講和及ヒ外國政府ト諸條約ヲ締結ス●貿易ノ諸條約及ヒ一國若クハ國民ノ負擔ヲ起スベキ諸條約ハ兩院ノ同意ヲ得テ始メテ施行スベキ

効力アリ

埃地利 第五條 皇帝ハ陸海軍ノ元帥ナリ戰ヲ宣シ和ヲ約ス

同 四篇第六條 皇帝ハ國事ノ條約ヲ諾ス但貿易條約及帝國ノ全部若クハ局部ノ負擔權ハ國民ノ義務ヲ起スヘキ國事ノ條約ヲ確定ノ者ト爲スカ爲メ帝國議會ノ承認ヲ必要トス

和蘭 第五十六條 國王ハ戰ヲ宣シ即時ニ之ヲ國會ノ兩院ニ通知ス且國家ノ利益安寧ト相密接スルト思慮スル所ノ者ハ同ク之ヲ通照ス

同 第五十七條 國王ハ外國ト講和ヲ約シ及ヒ其他ノ條約ヲ批准ス●國王ハ國家ノ利益安寧ニ關シ必要ト思量スレハ即時ニ右ノ條約ヲ國會ノ兩院ニ通照ス●歐羅巴洲内

若クハ他洲ニ於テ王國所屬地ノ局部ヲ讓與若クハ交易スル條約又ハ凡テ法律ニ準スル權利ニ關スル條約若クハ其修正ヲ含メル條約ハ國會ニ於テ其條約若クハ修正ヲ認可スル後ニ非レハ國王之ヲ批准セズ

伊太利 第五條 行政權ハ國王一人ニ屬ス王國ハ全國ノ首長ニシテ海陸軍ヲ指揮シ宣戰講和同盟貿易等ノ條約ヲ結フ然レハ國益及ヒ國安ニ關スル條約ハ豫メ兩院ニ報知シ且其理由ヲ附スヘシ●國財ヲ費シ若クハ國疆ノ變改ニ關スル條約ハ兩院ノ承認ヲ得ルニ非サレハ其効力ヲ有セズ

葡萄牙 第一百七條 陸海軍ノ構制昇級俸給及ヒ軍律ハ特別ノ勅令ニ因テ之ヲ規定スベシ

伊太利 第七十九條 貴族ノ爵位ヲ保護ス國王ハ貴族ノ爵位ヲ授ルノ權ヲ有ス

丁抹 第十八條 國王ハ宣戰講和及ヒ同盟貿易ノ條約ヲ結フ然レハ兩院ノ承認ヲ得ルニ非レハ土地ノ一部分ヲ割キ及ヒ現行公法「國憲刑法治罪行政」ノ條規ヲ變更スル條約ヲ結フコトヲ得ス

普魯西 第四十八條 國王ハ宣戰講和及ヒ外國政府ト諸條約ヲ締結ス●貿易ノ諸條約及ヒ一國若クハ國民ノ負擔ヲ起スベキ諸條約ハ兩院ノ同意ヲ得テ始メテ施行スベキ効力アリ

西班牙 四十五條 出前

白耳義 六十八 出前

葡萄 七十五 出前

第十四條 天皇ハ戒嚴ノ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス

墺地利 第四條 爵位勳章其他ノ榮章ハ皇帝之ヲ賜與ス

普魯 第七十五條 前出

和蘭 第六十三條 貴族ノ稱ハ國王之ヲ賜與ス●凡ソ和蘭國人ハ外國貴族ノ稱ヲ受ルヲ得ス

伊太利 第七十九條 貴族ノ爵位ヲ保續ス國王ハ貴族ノ爵位ヲ授ルノ權ヲ有ス

白耳義 第七十五條 國王ハ貴族ノ爵位ヲ與フルノ權ヲ有ス但シ附スルニ特權ヲ以テスルヲナシ

白耳義 第七十六條 國王ハ武器ヲ授與ス但シ此事ニ關シテハ別ニ法律ノ規定循フベシ

普魯西 第五十條 國王ハ爵位及ヒ他ノ勳章ヲ與フルノ權ヲ有ス但爵位勳章ハ特權特許ヲ附帶セズ(特榮アリテ特權ナシ)●國王ハ法律ノ條文ニ循テ貨幣鑄造ノ權ヲ有ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

丁抹 第二十六條 國王ハ特赦及ヒ大赦ヲ行フノ權ヲ有ス●「リグスレット」(大審院)ノ上ニ位スル最上等裁判所ヲ云第六十八條參看スヘシ●ニ於テ裁判ヲ宣告シタル大臣ノ犯罪ハ下院ノ承認ヲ得ルニ非レハ赦免スルヲ得ス

普魯西 第四十九條 國王ハ特赦ノ權ヲ有ス●然レモ大臣其官事ヲ以テ罪ヲ得ルモ其罪ヲ彈劾シタル議院ヨリ奏上スルニ非レバ其者ニ向テ此權ヲ施スヲ得ズ●國王ハ特ニ法律ニ依ルコト非ズシテ方ニ行ヘル法司ノ追究ヲ停ムルヲ得ス

墺地利 第十三條 皇帝ハ大赦特赦及ヒ減刑ノ權ヲ有ス但執行官ノ責任ニ對シ法律ニ依テ定メタル特例ハ此限ニ在ラス

普魯西 第六十六條 國王ハ特赦ノ恩典ヲ行フノ權ヲ有ス●三年以下ノ禁獄ト罰金トヲ單科又ハ併科シタル刑罰ニ關シテハ國王其之ヲ審判シタル判官ノ意見ヲ聽タル後此恩典ヲ行ヘ其以上ノ罪ニ於テハ大審院ノ意見ヲ聽キタル後ニ此恩典ヲ行フ●大赦及ヒ特赦ハ法律ニ依ラズシテ行フヲ得ス

伊太利 第七條 國王ハ法律ヲ確定シ且ツ之ヲ布告ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

西班牙 第六十一條 攝政及ヒ攝政議會ハ豫定シタル時機ニ於テ國王ノ全權ヲ行フ但シ總

十九

テ政令ハ國王ノ名ヲ以テ之ヲ公布ス

葡萄牙 第九十八條 攝政官及ヒ攝政ノ政令ハ左ノ例文法循ヒ國王ノ名ヲ以テ作ルヘシ

攝政官國王ノ名ヲ以テ命令ス ● 儲君國王ノ名ヲ以テ命令ス

普魯西 第五十八條 攝政ハ國王ノ名ヲ以テ王權ヲ行フ ● 攝政職ニ即クノ後其人兩院合會

ノ前ニ於テ普魯西國ノ憲法ヲ確守シテ侵サス而シテ憲法並ニ其他ノ法律ヲ遵守シ  
テ政ヲ行フノ誓ヲ宣フ ● 未タ宣誓ヲ行ハサルノ間一切ノ政機ハ國相仍ホ之カ  
責ニ任ス

普魯西 第五十六條 國未成年ニ屬シ若クハ曠時故障アリテ政ヲ親ラスルコト能ハサルトキ

ハ最近ナル傍系親ノ成年ナル者攝政ス此時ハ其人必ス急速兩院ヲ召集シ兩院會  
合シテ攝政ヲ設クルノ必要ナルコトヲ布告セシムヘシ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

普魯西 第三條 憲法及法律ニ於テハ普魯西國民タルノ身分及ヒ政權ノ獲得及ヒ其喪失ヲ

定ム

白耳義 第四條 白耳義人タルノ身分ヲ得且ツ之ヲ保テ及ヒ之ヲ失フコトハ民法ニ由テ定メ

タル規則ニ從フ

白耳義人タルノ身分ノ外ニ此憲法及ヒ他ノ公權ニ關スル諸法律并ニ公權ノ受用

ノ爲メニ欠ク可ラサル約束ヲ定ム

埃地利 第二條 凡ソ帝國議會ノ代表スル諸王國及屬地ノ人民ハ皆埃地利國民ノ權利ヲ有

ス埃地利國民權利ノ獲得喪失及ヒ執行ハ法律ヲ以テ定ム

獨逸 第三條 獨逸全國内ニ於テ國民タルノ權ハ凡テ平等トス故ニ聯邦一個國ノ人民ハ聯

邦ノ他ノ一個國ニ於テ該國人ト同一ノ待遇ヲ受テ住居營業官職又ハ土地ヲ購ヒ政  
權ヲ得ルコト其他種々民權ヲ行フコト付該國人ト平等ノ權利ヲ有ス且治罪及ヒ法律ノ  
保護ヲ受クヘキコトニ於テモ亦該國人ト同一ノ待遇ヲ受クヘシ ● 凡テ獨逸人ハ本屬

ノ長官ニ於テモ又聯邦各國ノ長官ニ於テモ權利ヲ妨碍セラルコトナシ ● 貧民ヲ助  
救シ及ヒ外來ノ者ヲ邑ノ戶籍ニ加フヘキ事件ニ關スル種々ノ規定ハ本條第一段ニ

記シタル所ニ循ヒ敢テ變更セラルコトナカルベシ ● 又放逐セラレタル者ヲ納レ及  
ヒ思者ヲ治療シ獨逸國民ノ死シタル者ヲ埋葬スハニ付テノ聯邦各國間ノ條規ハ假  
ニ其力ヲ有ス ● 本國ニ對ス陸海軍ニ盡スヘキ人民ノ義務ハ帝國ノ立法ヲ以テ其要  
件ヲ定ム ● 外國ニ對シテ凡ソ獨逸人民ハ均シク帝國ノ保護ヲ受ルノ權アリ

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ

公務ニ就クコトヲ得

普魯西 第四條 凡ソ普魯西國民タル者ハ法律上ニ於テ平等トス故ニ國民ノ間ニ特許ナル

者アルヨナシ(但北日耳曼聯邦同盟ニ於テ許ス所ノ舊君族「古一國ノ主タル者」ノ後)ハ兵役及直稅ヲ除クコトヲ得而シテ訟獄ニ係ルハ獨リ控訴院ノ裁決ヲ受ク(凡ソ

民法律ニ定メタル諸種ノ約束ヲ除クノ外均ク官ニ任スルコトヲ許ス

奧地利 第三條 凡ソ國民ハ皆文武官吏ト爲ルヲ得ヘシ外國人ハ奧地利國民タルノ權利ヲ得ルノ後ニ於テ始テ官吏ト爲ルヲ許ス

西班牙 第五條 凡ソ西班牙人ハ其器能ニ應シ文武ノ官吏タルコトヲ得

伊太利 第二十四條 國民ハ凡テ法律上ニハ平等トス●凡テノ國民ハ法律ニ定メタル特條ノ外均シク政權ヲ受ケ又文武官ニ任スルコトヲ得

葡萄牙 第一百四十五條 第十三 凡ソ國民ハ皆文武官若クハ國事ノ官ニ拜スルヲ得但才徳ニ因ルノ

外ハ區別スル所アル可ラス「官ニ拜スルニ當テ閱閱特准等ヲ設ケサルヲ云」

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

普魯西 第三十四條 兵役ハ凡テ普魯西國民ノ義務ナリ●服役ノ期限及ヒ規程ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

葡萄牙 第一百三條 凡ソ葡萄牙人ハ王國ノ獨立ヲ維持シ且ツ内亂外寇ヲ防禦スル爲メ兵

役ニ服スルノ義務アリ

西班牙 第六條 凡ソ西班牙人ハ法式ノ徵募ニ應ジ兵器ヲ擔シテ本國ヲ防護シ及ヒ私有ノ財產ニ應シテ國費ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

獨逸 第五十七條 凡ソ獨逸人ハ兵籍ニ入ルノ義務アリ然レモ代人ヲ以テ其義務ヲ施行スルコトヲ得ス「第五十三條ニ記載スル所ノ海軍ニ關係スル人ハ此限リニアラス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

西班牙 第六條 前出 葡萄牙 第一百四十五條 第十四 何人モ其所有產ニ比率シテ國家ノ負擔ヲ助クルノ費ヲ免ル可ラス「人々其所有產ノ多少ニ準シ租稅ヲ納レテ國用ヲ助ク」

伊太利 第二十五條 凡テノ國民ハ各財產ノ比例ニ從ヒ國費ノ爲メニ租稅ヲ納ムル者トス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

普魯西 第十一條 移住ノ自由ハ兵役ノ故ニ非ルヨリハ政府ヨリ之ヲ制限スルコトヲ得ス●移住ヲ爲ス者ニ向テ稅ヲ課スルコトヲ得ス

奧地利 第六條 凡ソ國民ハ邦内何レノ地ニ於テモ居住ヲ占メ各種ノ土地ヲ保有シ自由ニ之ヲ處分シ均シク諸工業ヲ營ムヲ得ヘシ但永世所有ノ地ニ關シテハ公利公益ノ爲メ法律由リ土地獲得ノ權及之ヲ處分スル權利ノ制限ヲ定ムルヲ得

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クコトナシ

普魯西 第八條 法律ニ因ラスシテ人ヲ糾治シ又ハ刑罰ヲ科スルコトヲ得ス

葡萄牙 第一百四十五條 第七 何人モ法律ニ據ケル場合ヲ除クノ外之ヲ捕拿スルコトヲ得ス

捕拿スル場合ニ於テハ裁判官自ラ署名シタル令狀ヲ以テ捕拿スル理由及ヒ告訴ト並ニ證人ノ氏名ヲ被告人ニ告知スヘシ但裁判官ノ居住ト相隣接スル府邑其他隣接ノ地ニ於テ捕拿スルハ其時ヨリ二十四時内ニ之ヲ告知スヘシ若シ裁判官ノ居住ヨリ遠隔スル地ニ於テ捕拿スルハ其距離ノ遠近ニ準シ法律ニ定メタル相當ノ期限内ニ之ヲ告知スヘシ

伊太利 第二十六條 國民ノ自由ヲ保護ス●法律ニ據ケタル時機ニ非ス且ツ法律ニ定メタル

ル規程ニ由ルニ非レハ何人モ拿捕セラレ、コトナク且ツ裁判所ニ召喚セラレ、コトナカルベシ

白耳義 第七條 人身自由ハ保固タリ

法律ヲ以テ規定スル時及ヒ法律ニ示ス所ノ規程ニ於テスルニ非レハ何人モ糾治ヲ受ルコトナシ現行犯ヲ除クノ外ハ理由ヲ明示シタル法官ノ令狀ニ據ルニ非レハ何人モ拿捕セラレ、コトナシ令狀ハ必ス拿捕ノ即時若クハ遅クモ廿四時内ニ之ヲ宣示スヘシ「正本ヲ示シテ副本ヲ付ス之ヲ宣示式ト云」

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

白耳義 第八條 何人モ其情願ニ非スシテ法律ノ付與スル所ノ法官ニ接スルコトヲ妨ゲラル

、コトナカルベシ

葡萄牙 百四十五條 第十 何人モ當該官吏ニ依ルノ外既定ノ法律ニ依リ及ヒ法律ニ定ムル規定ニ循フモ之ヲ斷ス可ラス

普魯西 第七條 何人モ其正當ナル法律ノ保護ヲ阻碍セラレ、コトナカルベシ●非常法衙ヲ設ケ若クハ特派審吏ヲ設クルコトヲ得ナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラレ、コトナシ

普魯西 第六條 住居ハ侵スヘカラサル者トス●住家内ニ侵入スルコト家宅ヲ探檢スルコト及ヒ書簡文書ヲ勾取スルコトハ法律ノ定メタル時機ニ因ラス亦法律ノ定メタル規程ニ循フニ非サレハ行フコトヲ得ス

據太利 第九條 住居ハ侵犯ス可ラズ故ニ住居不侵ノ權利ニ關スル千八百六十二年十月廿七日ノ法律ハ此憲法ノ部内ニ入ルヘシ

白耳義 第十條 住居ハ侵ス可ラス法律ニ據ケル場合ニ於テシ及ヒ法律ニ示ス所ノ規程ニ於テスル義ニ非レハ家宅ノ搜索ヲ行フコトヲ得ス

丁抹 第八十一條 住居ハ侵ス可ラサル者タリ●家宅ヲ搜索シ又書簡文書ヲ勾取シ及其秘密ヲ侵スコトハ法律ニ由テ定メタル格別ナル時機ノ外單ニ裁判宣告ノ効力ヲ以テ之ヲ行フヲ得ス

伊太利 第二十七條 住居ハ侵ス可ラサル者トス法律ニ示シタル定規ニ由ルニ非ス及ヒ法律ニ定メタル法式ニ因ラスシテ家屋ヲ探索スル能ハズ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ  
換地利 一篇第十條 ノ秘密ハ侵ス可ラス凡信書ヲ檢收スルハ現在ノ法律ニ依リ法ニ適シタル拿捕又家宅搜索ノ場合ヲ除クノ外戰時若クハ法衙ノ斷按ニ依ルコト非レハ之ヲ行フヲ得ス

普魯西 第三十三條 信書ノ秘密ハ侵スベカラス●戰時及ヒ罪犯糾治ノ爲メニ止ムヲ得サル制限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムベシ

白耳義 第二十二條 信書ノ秘密ハ侵ス可ラス郵便信書ノ秘密ヲ破リタル者アレハ其吏人如何ナル責ニ任スヘキカハ法律之ヲ定ム

葡萄牙 第一百四十五條 第二十五 信書ノ秘密ハ侵ス可ラス驛遞局ハ信書不侵ノ件ニ於テ如何ナル違犯アルモ嚴ニ其責ニ任ス

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

葡萄牙 百四十五條第二十一 所有ノ權ハ嚴ニ之ヲ保固ス若シ法律上ニ憑證シタル公利ノ爲メニ政府國民ノ所有ヲ享用スルコトヲ要スルハ豫メ該國民ニ其所有產ノ價直ヲ給スヘシ但シ此特例公利ノ爲ニ私有ヲ官沒スルヲ云フハ行フヘキ場合及ヒ前給ヲ定ムル條規ハ法律ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

同一篇 第五條 私有權ハ侵犯ス可ラス法律ニ定タル場合ニ於テ法律ニ掲タル例規ヲ履行スルニ非レハ私有主ノ意ニ違フテ沒收ヲ行フヲ得ス

丁抹 第八十二條 所有物ハ侵ス可ラサル者トス公益ノ故ニ由ルニアラサレハ何人モ其所有物ヲ讓ルコ及ハス公益ノ爲メニ其所有物ヲ讓ルコトハ法律ノ効力ニ依リ且ツ十分ナル賠償ヲ以テノミ之ヲ行フヲ得

伊太利 第二十九條 凡テノ財產ハ侵ス可ラサル者トス●然レ法律ニ掲ケタル公益ノ故ニ由リ法律ニ於テ正當ナル賠償ヲ以テスルハ其全部或ハ局部ヲ失フベシ

普魯西 第九條 私有財產ハ侵スベカラザル者タリ●全部局部ヲ論セス私有財產ヲ沒收スルコトハ法ニ循ヒ証驗シタル公益ノ爲ニスル場合ニ限り且ツ其價值ヲ前給シ若シ緊急ナル時ハ亦必ス價值ヲ前定スルコト非レハ之ヲ行フヲ得ス

白耳義 第十一條 公益ノ故ニ由リ及ヒ法律ニ定メタル時機ニ於テシ及ヒ法律ニ定メタル



法式ニ依リ而ノ豫メ正當ナル賠償ヲ以テスルニ非レハ何人モ私有權ヲ奪ハル、  
イナシ

條二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由  
ヲ有ス

普魯西 第十二條 奉教ノ自由ハ教會ヲ聚メ又ハ公私ノ堂宇ニ於テ禮拜祭儀ヲ公行スルノ  
權ハ之ヲ許ス處トス●民權政權ノ享有ハ各民奉スル處ノ教旨ノ如何ニ關スルコ  
トナシ但奉教ノ自由ハ以テ民事政事ノ義務ヲ妨グヘカラズ

和蘭 第六十四條 凡ソ國民ハ自由ニ其信スル所ノ法教ヲ奉ス但刑法ヲ犯スヲ制シテ會  
社及社員ヲ保護スルコトハ此限ニアラス

奧地利 第一篇第十四條 法教及知識ノ自由ハ全國民ノ爲メ之ヲ保固ス●民權及政權ノ享  
有ハ人民信仰スル所ノ宗旨ニ拘ハルコトナシ然レ人民ハ何ノ場合ヲ論ゼス  
法教ノ自由ヲ行フ爲ニ國民タルノ義務ヲ欠クヲ得ス●何人ニテモ強テ寺  
院ノ訓令ニ隨ヒ又ハ法教上ノ儀式ニ參セシメラル、コトナシ但法律ニ依リ  
此權ヲ委任サレタル者ニ隸屬スルハ格別ナリトス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス  
伊太利 第二十八條 出版ハ自由ヨリ然レ一ノ法律ニ由テ惡弊ヲ防制スルコトヲ得●新舊約

書及ヒ教法問答禮拜式ノ書籍ハ副督教「第二等高僧」ノ准許ヲ得ルニ非レハ出版  
スルコトヲ得ス

伊太利 第三十二條 武器ヲ携フルコトナシ平和ニ集會スルノ權ヲ有ス然レ此權ヲ行フハ公  
益ノ爲ニ定メタル法律ニ循フヘシ●此ニ定メタル法則ハ公場ノ集會ニ適用ス可  
クモ公場ノ集會ハ警察規則ニ屬ス

普魯西 第二十七條 凡普魯西國民タル者ハ言論文章印刷繪畫ヲ用非テ自由ニ其意志ヲ表  
示スルノ權ヲ有ス●監督ノ法ヲ設ケルコトヲ得ス●其他凡ソ出版自由ノ制限ハ議  
院ノ議定ニ由ルニ非レハ設ケルコトヲ得ス

同 第三十條 凡普魯西民ハ刑法ニ觸レサル旨趣ノ會社ヲ結フノ權ヲ有ス●平和ヲ  
保持スル爲メコ法律ヲ以テ本條及ヒ第二十九條ニ保シタル權利受用ノ規則ヲ定  
ム●國政ニ關係スル者ハ議院ノ議定ニ由リ之ヲ制限シ或ハ一時之ヲ禁過スルコ  
トヲ得

白耳義 第十八條 出版ハ自由ニシテ監査法ヲ設ルコトヲ得ス著述人公布人印刷人ヨリ豫約金  
ヲ徵集スルヲ得ス  
若シ著述人ノ名ヲ顯ハシ及ヒ其白耳義ニ住居シタル時ハ公布人印刷人及發兌人  
ヲ糺治スルヲ得ス

白耳義 第十九條 凡ソ白耳義人ハ兵器ヲ携ヘズシテ平穩ニ集會スルノ權ヲ有シ此權ノ受用ヲ定ムル所ハ法律ニ循フ然レモ官ニ請テ其認可ヲ受クベシ

此條規ハ屋外ニ會スル者及ヒ警察法ニ從フヘキ者ニ適用セス

同 第二十條 白耳義人ハ結社ノ權ヲ有ス此權ハ何等ノ防制方法ニモ從フコトナシ

葡萄牙 第四百四十五條 第三 凡ソ國人ハ言辭文書ヲ以テ其思想ヲ交通シ及ヒ監査ヲ受ルコトヲ思想ヲ印刷頒行スルコトヲ得但思想自由ノ權ヲ受用スルニ因リ犯ス所ノ罪

アルハ法律ニ定メタル場合並ニ規程ニ循フテ其實ヲ受クヘシ

丁抹 第八十六條 國民ハ裁判所ニ對シ責ニ任スヘキ出版ノ方式ヲ以テ自己ノ思想ヲ公示スルノ權ヲ有ス

著書監査ノ法及ヒ一切ノ制限ハ更ニ設ルコトヲ得ス

同 第八十七條 凡ソ國民ハ政府ノ許可ヲ得ザルモ法律ニ觸レサル目的ヲ以テ結社スルノ權ヲ有ス何レノ會社ト雖モ行政ノ處分ニ依テ之ヲ解散スルヲ得然レモ假ニ會社

禁止スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ法律ノ力ヲ以テ其禁ヲ解クカ爲ニ急速其事ヲ裁判所ニ告訴スルヲ要ス

西班牙 第二條 凡ソ西班牙人ハ法律ヲ遵守スル限リハ豫メ檢査ヲ受ルコトヲ自由ニ其思想ヲ印刷公行スルコトヲ得(增補律例第一條參看)

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

西班牙 第三條 凡ソ西班牙人ハ法律ノ規定ニ循ヒ意見ヲ國會及ヒ國王ニ奏呈スルノ權ヲ有ス

白耳義 第二十一條 各人ハ官ニ向テ一名若クハ衆名ノ上言書ヲ進ムルノ權ヲ有ス

連衆一名ノ上言書ヲ進ムルノ權ヲ有スルモノ獨リ公立官ニ限ル

同 第一條 凡ソ國民ハ皆建白ノ權ヲ有ス法執ニ認メタル公會若クハ結社ニ限リ連衆一名ニテ建議スルコトヲ得

同 第三十二條 凡ソ普魯西國民ハ上言ノ權ヲ有ス●連衆一名ノ上言書ハ官司及ヒ公會ヲ除クノ外之ヲ進ムルコトヲ得ス

第三十一條 本意ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

普魯西 第一百十一條 内外戰乱危險ノ日ニ當テハ憲法ノ第五條第六條第七條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十六條ハ臨時適宜ノ處分ヲ要スル時ニ限リ其

時間及ヒ其地方ニ在テ法ノ効力ヲ失フベシ

葡萄牙 百四十五條 第三十四 騷乱若クハ敵國侵入ノ時機ニ際シ國安ノ爲メ各人ノ自由ヲ保固スル例規ノ幾分ヲ定期間停止スルコトヲ要スルハ立法權ヨリ發布スル

特別ノ命令ニ依リ之ヲ行フヲ得ヘシ然レ此時國會未ダ開會セズノ困難最モ急  
ナレハ「己ムヲ得サル措置」トシテ政府假ニ前文ノ處分ヲ爲スヲ得ヘシ但此處  
分ヲ證明シタル急難方サニ止ムトキハ速ニ其執行ヲ停ム又何レノ場合ニ於テモ  
政府ハ專ラ命令シタル捕拿其他ノ豫防策ヲ證明シタル報告書ヲ國會集合ノ後即  
時ニ之ヲ送付スヘシ且ツ拿捕及ビ其他ノ豫防策ヲ執行スルノ命令ヲ受タル諸部  
ノ官吏ハ皆其行フタル奸私ノ責ニ任スヘシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸スサルモノニ限り軍入ニ  
準行ス

普魯西 第三十九條 第五條第六條第廿九條第三十條第三十二條ハ此軍律ト相離レサル者  
ヲ除クノ外軍兵ニ適用セス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

丁抹 第二十九條 兩院ハ下院及ヒ上院ヨリ成ル

奥地利二篇 第一條 奥地利帝國ヲ代表スル帝國議會ヲ分テ上院下院ノ二局トス●何人ト  
雖レ上院下院ノ議員ヲ兼任スルヲ得ス

奥地利 第二條 成年ノ皇族ハ門地ニ依リ上院議會ノ員ニ入ル

西班牙 第十三條 國會ハ同權ヲ有スル二ノ立法院ヲ以テ成ル即チ元老院及ヒ代議士院ナ  
リ

和蘭 第七十五條 國會ハ上院下院ヲ以テ成ル

同 第十四條 太子男統ノ裔缺タルキハ亦タ正系繼承ノ權ニ因リ王位ヲ太子ノ兄弟若ク  
ハ兄弟ノ男統ノ孫子ニ傳フ

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組  
織ス

普魯西 六十五條ヨリ六十八條ニ至ル(千八百五十八年別書代下文)上院ハ王命ニヨリテ設  
立ス而其王命ハ兩院詰同セル法章ニヨルニ非レバ修改スルヲ得ズ上院ハ國王ヨ  
リ終身ヲ以テ任命シタル議員及世繼ノ議員ヲ以テ構成ス

奥地利 第二條 成年ノ皇族ハ門地ニ依リ上院議會ノ員ニ入ル

第三條 本國ノ貴族ニシテ財産ニ富ミ皇帝ヨリ上院世襲議員ノ稱ヲ授ケタル成年ノ家主ハ  
世襲ノ議員ナリ

第四條 儿ッ帝國貴族ノ稱ヲ有スル大僧正僧正ハ高僧ノ官ニ在ル故ヲ以テ上院議員ナリ

第五條 皇帝ハ國事宗教文學若クハ技術上ニ於テ著名ノ學士ヲ上院ノ終身議員ニ任スルノ  
權ヲ有ス

西班牙 第十五條 政府ハ國會開會ヨリ八日以内ニ前年ノ決算報告及ヒ翌年ノ豫算表ヲ代  
議士院ニ下付スヘシ

同 第十六條 國會ハ會計法ヲ議スルノ前ニ憲法第七十四條ニ關スル法律ヲ議スヘシ  
第三章 貴族院

葡萄牙 第三十九條 貴族院ハ國王ノ任命シタル終身官ノ議員ヲ以テ成ル  
和蘭 第七十一條 參議院ノ構制權限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム ●國王ハ參議院ニ上席シ該院  
ノ議員ヲ任命ス ●太子ハ滿十八歳ニ至リ參議院ニ陪席シ評議ノ權ヲ有ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス  
伊太利 第三十八條 王族ノ身上證書(婚姻出產死亡ノ證書)ハ元老院ニ送り元老院ハ其証  
書ヲ書房中ニ藏ス可シ

同 第二十九條 下院ハ法律ニ定メタル選舉區ヨリ派出スル代議士ヨリ成ル  
同 第四十條 國王ノ支配ヲ受ケ滿三十歳ニシテ政權民權ヲ享ケ法律ノ規程ニ適スル  
者ニ非ル代議員ハ議院ニ參席ス可ラス

獨逸 第二十條 下院ハ匿名投票ニ由リ全國ノ直接選舉ヲ以テ之ヲ編製ス ●一千八百六十  
九年五月三十一日ノ撰舉法ノ第五條ニ掲載シタル改正ヲ實施セラレサル間ハ「巴  
威略」ハ四十八名「瓦敦堡」ハ十七名「巴敦」ハ十四名「マイメ」河南ニ在ル「ヘツセ

ン」ハ六名ノ代議士ヲ派出ス故ニ下院全員二百八十二名トス(現時ハ「アハサス」  
ウレ「ス」ノ二州ヨリ十五名ノ議員ヲ派出スルカ故ニ全員ハ三百九十七名トス但  
獨逸聯邦ヨリ出フ所ノ二百九十七名ヲ合算ス)

普魯西 第六十九條 下院ハ民選議員二百五十二人ヲ以テ構成ス ●選舉區ハ法律ヲ以テ之  
ヲ定ム一千八百六十年六月二十七日ノ法律ヲ以テ選舉區ハ百七十六區トス(選舉區ハ  
一區(地方固有ノ區)ヲ云フ普魯西全國三百二十六區ヲ得)或ハ數區ヲ以テ成ル

白耳義 第四十七條 代議士院ハ國民直ニ撰フ所ノ代議士ヲ以テ成ル但シ國民トシテ撰舉法  
ニ定ムル所ノ直稅百「フローリン」以下二十「フローリン」以上ノ歲額ヲ納ル者  
ニ限ル(儒醫代言人ハ撰舉權ヲ有ス)

西班牙 第二十條 代議士院ハ撰舉會ノ法律ニ因リ定メタル規定ニ從ヒ命スル所ノ議員ヲ  
以テ成ル但シ少クモ人口五萬人ニ付代議士一名ヲ出スヘシ(増補律例第十四  
條參看)

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス  
白耳義 第三十五條 一人ニシテ兩院ノ議員ヲ兼ルヲ得ス

和蘭 第八十八條 上下兩院ノ議員ヲ兼任スルヲ得ス  
伊太利 第六十四條 凡ソ議員ハ兩院ノ議員ヲ兼任スルヲ得ス

三十五

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

伊太利 第三條 立法ノ權ハ國王元老院及ビ下院合同シテ之ヲ行フ

獨逸 第六十二條 獨逸帝國一般陸軍及其陸軍ニ關シタル種々ノ建造物ニ付テ一切ノ入費

ノ補償トシ第六十條ニ循フテ治平ノ時間ニ陸軍人員ノ一人ニ付二百五十五「メー

レル」ノ割合ヲ以テ各國人民ヨリ本年十二月三十一日迄ニ皇帝ニ納ムヘシ●本年

十二月三十一日以後聯盟各邦ハ右金額ノ割合ヲ以テ前年ノ如ク毎年帝國大藏省ニ

納ムヘシ其金額ヲ計算シテ定ムル「ハ帝國ノ議院決定ノ改正アラサル限りハ第六

十條ニ假定シタル陸軍人員ニ依テ之ヲ定ムヘシ●獨逸帝國一般陸軍及種々ノ建造

物ノ爲ニ右金額ヲ費用スル「ハ豫算表ノ決定ニ從フヘシ●陸軍豫算表ヲ決定スル

「ハ此國憲ニ定メタル所ノ陸軍編制ノ方法ヲ以テ其豫算表ヲ決定スヘシ(第五十

八條ヨリ第六十八條參看)

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及名々法律案ヲ提出スルコトヲ得

丁抹 第四十四條 各議院ハ新ニ法律ヲ起草シ及ビ其議院ニ關スル事件ヲ決定スルノ權ヲ

有ス

奧地利 第三十三條 法律議案ハ政府ヨリ帝國議會ニ送附ス然レ帝國議會モ亦其權内事

務ノ法律ヲ發議スルノ權ヲ有ス●何レノ場合ニ於テモ法律ニ具體不易ノ力ヲ與

フルハ上下兩院ノ合意ト皇帝ノ裁可ヲ必要トス●會計法ニ於テ各省ノ金額ニ關

シ點徴法ニ於テ募兵ノ員數ニ關シ議論數回ニ及テ兩院ノ議相協ハサル「ハ募兵

若クハ金額ノ最少數ヲ以テ同意ノ定數ト看做スヘシ

普魯西 第六十四條 國王並ニ各院ハ法律ヲ發案スルノ權ヲ有ス兩院ノ一、若クハ國王ヨ

リ斥ケタル法律草案ハ其全一ノ會期ニ於テ再進スル「ヲ得ス

葡萄牙 第四十五條 法律議案ノ發議及ヒ許否ハ上下各院ニ屬ス

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得

ス

西班牙 第三十八條 立法兩院ノ一ニ於テ斥ケラレ又國王ノ可ト爲サ、ル法律議案ハ其議

員任期中再ヒ之ヲ進ムル「ヲ得ス(增補律例第七條參看)

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ

其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

丁抹 第四十五條 各議院ハ國王ニ向テ建言スルノ權アリ

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

和蘭 第九十五條 國會ハ少クモ毎年一回會議ヲ開ク●通常會期ハ第九月第三ノ月曜日ニ

開ク●國王ハ自ラ必要ト思量スル「ハ兩院ヲ召集シテ臨時會議ヲ開ク

西班牙 第二十六條

國會ハ每歲集會ス其之ヲ召集シ延期シ及ヒ會期中止シ或ハ代議士

院ヲ解散スル等ノ權ハ國王ニ屬ス(增補律例第六條參看)

獨逸 第十三條

上院及下院ノ召集ハ每年必ス之ヲ爲ス可シ然レ下院ヲ召集セシテ豫メ種々ノ事務ヲ準備スル爲ニ上院ヲ召集スルヲ得ヘシト雖モ上院ヲ召集セシテ先下院ヲ召集スルヲ得ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條

臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ期會ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

白耳義 第七十條

兩院ハ每年十一月第二ノ火曜日ニ之ヲ開クノ權ヲ有ス但シ其前ニ國王ヨリ徵集シタルト否トヲ論セサルモノトス

兩院ハ每年必ス四十日以上其會ヲ繼續スヘシ

同會ハ閉會ヲ宣告ス

第四十四條

帝國議會ノ開會閉會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

普魯西 第七十七條

兩院ノ開閉ハ國王親ラ宣告シ或ハ特ニ任シタル一ノ大臣ニ由テ之ヲ

宣スルニハ必ス兩院合會ノ時ニ於テス●兩院ノ召開延閉ハ皆全時ニ於テス●若シ唯其一院ニ解散シタルキハ(不時解散)他人一院ハ固ヨリ在留シテ定期ニ至ルヲ得

伊太利 第四十八條

各院ノ集會ハ同時トス一ノ議院ノ集會セサル時他ノ議院ノ集會スルハ法律ニ循據セサルモノニシテ其効力ヲ有セス

第四十五條

衆議院解散ヲ命セラルタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

獨逸 第二十五條

下院ヲ解散シタル場合ニ於テハ解散シタル日ヨリ六十日間ニ選舉ハヲ召集シ九十日間ニ更ニ復タ下院ヲ召集ス可シ

和蘭 第七十條

國王ハ同時ニ又ハ別々ニ國會ノ兩院ヲ解散スルノ權ヲ有ス●國會解散ノ布告ト同時ニ四十日以内ニ新議院ノ撰舉及ヒ二月内ニ該議院ノ召集ヲ命ス

第七條 參議 及ヒ各省

第四十六條

兩議院ハ各々其總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

葡萄牙 第一百條

兩院ハ議員半數以上出會スルノ外各別ニ又合同シテ論議決定スルヲ得ス

伊太利 第五十二條 各院ノ議員過半数列席セサルハ集會及ヒ會議ハ其効力ヲ有セス  
丁抹 第六十一條 各議院ニ於テ議員ノ半数闕席シ及ヒ可否ノ公評ニ與カフサルハ兩院  
ノ一院ハ決定ヲ爲スヲ得

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル  
西班牙 第三十七條 凡ソ決ヲ舉ルハ兩院皆公評ノ過半数ヲ以テス法律ヲ公評スルニハ各  
院其全議員過半数ノ出席ヲ要ス

伊太利 第五十四條 各院ハ過半数ヲ以テ可否ヲ決定ス  
和蘭 第一百條 凡ソ決ヲ舉ルハ投票ノ過半数ヲ以テス●論議兩立スルハ決定ヲ後會ニ  
附ス該會又ハ總議員出席ノ議會ニ於テ論議兩立スルハ其發議ヲ棄却ス

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲ス  
コトヲ得  
普魯西 第七十九條 兩院ノ議會ハ公行トス●議長若クハ議員十人以上ノ請求ニ依ルハ  
各院ニ於テ秘密會議ヲ行フヲ得且ツ其請求ノ可否ヲ議スル亦タ秘密會議ヲ以テ

白耳義 第三十三條 兩院ノ會議ハ公行トス然レ各院其議長又ハ議員十人ノ請求ニ依テ秘  
密會議ヲ行フヲ得

奧地利 第二十三條 上下兩院ノ會議ハ公行トス然レ兩院ハ議長若クハ少クモ議員拾名ノ  
請求スルニ當リ聽衆ヲ退ルメ後該院ニ於テ之ヲ可ト決スルハ特ニ秘密會議ヲ  
開クノ權ヲ有ス

西班牙 第三十四條 元老院及ヒ代議士院ノ會議ハ公行トス但シ臨時必要ノ場合ニハ秘密  
會議ヲ開クヲ得ヘシ

丁抹 第六十五條 兩院ノ集會ハ公行トス然レ議長及ヒ規則ニ定タル所ノ議員ハ議員ニ非  
ル者ヲ院中ヨリ退去セシメントナリ請求スルノ權アリ而シテ議院ハ其集會ヲ公行スヘ  
キカ將タ秘密ニスヘキカヲ決定スルヲ得

伊太利 第五十二條 各院ノ集會ハ公行トス●然レ議員十人ノ求メニ由リ秘密會議ヲ開ク  
ヲ得ヘシ

葡萄牙 第二十三條 上下兩院ノ會議ハ國益ノ爲メ秘密ニ附スルヲ得ヘシ●少クモ議員拾名ノ  
ノ外公行トス

同 第九十六條 國會各院ノ多數ニ由リ明瞭ト定メタル外形ノ原由(疾病ノ類)若クハ  
心性ノ原由(狂癲ノ類)ノ爲メニ國王政ヲ親ラスルヲ得サルハ諸君既ニ滿十八  
歳ヲレハ攝政ト爲リ代テ國政ヲ統治スヘシ

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

普魯西 第八十一條

各院ハ自ラ國王ニ上奏スル權ヲ有ス●何人モ兩院ニ向テ自ラ上言書ヲ付スルヲ得ス●各院ハ受取ル所ノ上言書ヲ各大臣ニ送付シ書中載スル所ノ訴ニ付キ大臣ノ説明ヲ求ムルヲ得

和蘭 第百十三條 法律議案ヲ除クノ外兩院ハ各別ニ其他ノ諸議案ヲ國王ニ奏上スルヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受ケルコトヲ得

伊太利 第五十七條 成年ノ國民ハ議院ニ向テ願書ヲ進呈スルノ權アリ議院ハ委員ニ托シテ願書ヲ調査セシメ而シテ委員ノ陳呈ニ由テ願書ヲ受ケヘキヲ決定スルキハ其受ケル所ノ願書ヲ主任ノ大臣或ハ緊要ナル事件ヲ調査スル爲メニ設ケタル委員ニ送付スルノ權アリ

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲ケルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

普魯西 第七十八條

各院ハ自ラ其議員ノ權限ヲ監査シ其撰擧ニ關スル爭訟ヲ決ス●各院ハ其事務ノ規則及ヒ其紀律ヲ定ム又其議長副議長記官ヲ撰フ●官吏タル者ハ兩院ニ入ル爲メニ其職ヲ辭スルヲ要セス●若シ代議士タル者新ニ行政部ノ一官(權限アル官)ヲ受ケ若クハ政府ノ官使(權限ナキ官)ニ入り若クハ俸給増加ヲ得

テ他ノ使用ニ轉スルキハ其資格ヲ失ヒ及公評ノ權ヲ失フ而シテ新撰ニ依ルコト非レ

ハ代議士ニ復任スルヲ得ス●何人モ兩院ノ議員ヲ兼ヌルヲ得ス

埃地利 第二十四條 院內事務施行ノ細則上下兩院相互ノ關係及其他官省ノ關係ハ特ニ法律ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

伊太利 第六十一條 各院ハ自ラ設ケタル條規ニ由テ其職務ヲ行フニ付テノ法式ヲ定ム

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

普魯西 第八十四條 議員ハ公評ノ爲メ及ヒ院中ニ於テ發議シタル意見ノ爲メニ審糾セラル、コトナシ但シ院中ニ於テノ處分ハ此例ニ非ス●凡議員ハ開會間刑事

ニ觸レタル犯罪アリト雖モ本院ノ許可ナクシテ之ヲ料治勾捕スルヲ得ス但即日或ハ翌日發見サレタル現行犯ハ此限ニアラス●其負債ノ爲ニ拘留スルニモ亦マ全シク本院ノ許可ヲ要ス●本院ノ請願アルキハ開會間民刑ヲ論セス凡テノ糾治拘留者之ヲ解放ス

白耳義 第四十四條 兩院ノ議員ハ其職ヲ行フニ就テ發言シタル意見ニ係テ私治檢索セラ

ル、コトナカルヘシ



奧地利

第十六條

下院ノ代議士ハ其擧者ヨリ委任訓示ヲ受ク可ラス●帝國議會ノ議員

四十四

ハ決シ其職ヲ執行スルノ爲ニ行フタル公評ノ責ニ任セテ獨リ其隸屬スル院ニ對シ職務ヲ執行スル爲ニ發議スルノ責ニ任スルノミ●凡ソ帝國議會ノ議員ハ會議ノ際ニ於テ現行犯罪ノ場合ヲ除キ本人ノ隸屬スル院ノ承允ヲ得ルコトナク司法上ノ手續ヲ以テ之ヲ拿捕シ若クハ糺治スルヲ得ス●現行犯罪ノ場合ニ於テモ裁判所ヨリ即時ニ議員ヲ捕拿セシメテ該院ノ議長ニ通知スヘシ該院ヨリ請求スル所アラハ會議ノ時間犯罪議員ノ禁獄ヲ停メ糺治ヲ廢スヘシ該院ハ會期間ノ外ニ議員中ノ者ヲ拿捕シ若クハ糺治スルニ當リ亦同上ノ權ヲ有ス

丁抹

第五十七條

兩院一集會中議院ノ承認ヲ得スシテ要價ノ爲メニ議員ヲ禁獄スルコトヲ

得ス又現行犯罪ヲ除クノ外之ヲ禁獄シ及ヒ裁判所ヘ召喚スルコトヲ得ス●兩院ノ議員ハ議院内ニ於テ發言セル意見ノ爲メニ審判ヲ受ルコトナシ

伊太利

第五十一條

各院ノ議員ハ會議ニ於テ發言シタル意見及ヒ可否ノ發言ヲ爲シタル

西班牙

第四十條

元老議員及ヒ代議士ハ其職ヲ執行スル爲メ發シタル論說公評ノ故ヲ以テ之ヲ侵スコトヲ得ス

葡萄牙

第二十五條

上下兩院ノ議員ニ其職務ヲ以テ發シタル論說ノ爲メニ之ヲ審判スルコト

ヲ得ス

葡萄牙

第九十二條

兩院ノ議員ハ會議ニ於テ發言スル所ノ論議ノ爲メニ司法上ノ手續ヲ以テ糾治スルコトヲ得ス

第五十三條

兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内乱外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾

ナクシテ逮捕セラルコトナシ

西班牙

第四十一條

元老議員ハ其現行犯罪ニ由テ拘捕セラレハ又ハ元老院ノ集會セ

サル時ノ外豫メ元老院ノ決定ヲ經スシテ之ヲ糾治シ又囚捕スルコトヲ得ス然レ何レノ場合ヲ論セス至急ニ議員ヲ糾治シ若クハ囚捕スルハ之ヲ元老院ニ報知シ以テ該院權限内ノ處分ヲ爲サシム代議士モマシ其現行犯罪ニ因リ拘捕スルノ外代議士院ノ承諾ヲケレハ會期間ニ之ヲ糾治シ又囚捕スルヲ得ス然レ現行犯罪ニ因リ囚捕シ及ヒ會期ヲ閉ツルノ後ヲ糾治シ又囚捕スル場合ニ於テモ至急ニ之ヲ代議士院ニ報知シ該院ヲシテ該件ヲ調査シ之ヲ處分セシムヘシ(增補律例第八條參看)

葡萄牙

第二十六條

凡ソ貴族院若クハ代議士院ノ議員ハ其現行重罪犯ノ場合ヲ除クノ外

何レノ官廳ト雖モ本人附屬スル議院ノ許諾ナクシテ職務執掌ノ際ニ囚捕スルコトヲ得ス

四十五

白耳義

第四十五條 兩院ノ各議員ハ本院ノ許可ヲ經スシテ開會ノ間刑事ノ爲メニ追礼捕縛スルヲ得ス但シ現行犯ハ此例ニアラス●全前許可ヲ經ルニ非レハ開會ノ間兩院議員ニ向テ要償ノ勾留ヲ行フヲ得ス●兩院議員ノ勾留及ヒ礼治ニ付キ該院ノ請求アルレハ開會ノ間之ヲ停止ス

埃地利

二篇十六條 前出  
第五十二條 前出

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

普魯西

第六十條 諸大臣並ニ大臣ノ代理タル諸官ハ兩院ニ陪席スルノ權ヲ有ス而シテ發言ヲ願フコトアル毎ニ議院必ス之ヲ聞クベシ●各議院ハ諸大臣ノ出頭ヲ請求スルヲ得●諸大臣ハ其議員タルレテ除クノ外公評權ヲ有セス

葡萄牙

第四十七條 大臣ハ委員説明スルノ後ヲ發議ヲ辨論主張スルヲ得然レハ貴族院若クハ代議士院ノ議員タルニ非レハ公評シ又公評ニ參與スルヲ得ス

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第十條 埃地利 帝國議會ハ成ル可ク每歲冬月ニ皇帝之ヲ招集ス

普魯西

第四十四條 國王ノ諸大臣ハ其責ニ任ズベキ者トス●國王ノ政府ヨリ出ル一切ノ文書ハ必ズ其事ノ責任ニ當ル處ノ一ノ大臣之ニ副署シタル後始メテ施行スベキ効力アリ

白耳義

第六十四條 國王ヨリ出ル文書ハ一ノ大臣之ニ副署シタル後ニ非レハ施行ノ効力ナキモノトス而シテ大臣ハ唯テ副署シタルニ因テ其責ニ任ス

伊太利

第六十七條 諸大臣ハ職務ニ付テノ責ニ任ス法律及ヒ一切ノ文書ハ大臣一人ノ捺印アラサレハ其力ヲ有セス

葡萄牙

第一百五條 大臣ハ縱ヒ官辭若クハ文書ヲ以テスル王命アルモ其責任ヲ免ル、コトヲ得ス

丁抹

第十三條 國王ハ大臣ヲ任免ス●國王ハ大臣ノ員ヲ定メ及ヒ政務ヲ分任ス法律及ヒ行政ニ付テノ決定書ハ國王及ヒ大臣ノ署名アルニ非レハ其効力ヲ有セス大臣ハ署名シタル決定書ニ付キ其責ニ任ス

第五十六條

樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

英國 樞密院 制參考

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

普魯西 八十六條 司法權ハ不覇ノ諸法衙ニ由リ(普魯西國ハ凡ソ一ノ大審 二十二ノ控 訴院四十六ノ裁判所ト及商工裁判所保安裁判所等ヲ以テ組成ス)國王ノ名ヲ以テ之ヲ施行ス諸法衙ハ法律ヲ除クノ外他ノ權威ニ從フコトナシ●裁判ハ國王ノ名ヲ以テ宣告シ且ツ執行ス

同 第八十九條 諸裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

奧地利 第五篇第一條 凡國內ノ裁判ハ皇帝ノ名ヲ以テ執行ス上等及下等法院ノ處斷ハ皇帝ノ名ヲ以テ行フ

同 第五篇第二條 法院ノ構制及權限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ●法律ニ定メタル場

合テ除クノ外ハ審判ヲ行フカ爲メニ非常法衙ヲ設ルヲ得ス

和蘭 第百四十五條 凡ソ裁判ハ國王ニ於テ國王ノ名ヲ以テ執行ス

丁抹 第七十條 司法權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

同 第六十八條 凡ソ裁判ハ國王ノ任シタル裁判官ニ由リ王名ヲ以テ宣告ス

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

英吉利 第六條 嗣子ハ妻ヲ娶ルニ損耗ナキヲ要ス故ニ婚姻ヲ約スル前必ズ最近ノ親戚ニ報告ス可シ

葡萄牙 第二百二十條 法司(罪ヲ擬シテ罪ヲ決セス故ニ法司ト名ツク其員百四十二佛國ノ豫審裁判官ニ當ル)ハ轉移ス可ク(終身官ニ任ズ)然レ法律ニ定メタルニ際シ

及ヒ之ニ定メタル方法ニ循テ裁判官ヲ免職スルコトヲ得ヘシ

普魯西 第八十七條 諸法官ハ國王ニ依リ或ハ國王ノ名ヲ以テ終身ヲ期シ之ヲ撰任ス●諸

法官ハ法律ニ定メタル事故ノ爲メニ審判ヲ受クルノ外其官ヲ免シ又ハ非職トナ

スコトヲ得ス●密問中非職トナシ及ヒ本人ノ願ハサル轉任及ヒ老退ヲ命ズルハ法

律ニ定メタル事故ノ爲メ且ツ法律ニ定メタル規程ニ從ヒ而シテ審判ニ由ルニ非レ

バ之ヲ行フコトヲ得ス但事務ノ爲メ已ムコトヲ得ザル轉任ハ此限ニアラス

同 第九十條 定法ノ能力アル者ニアラザレバ法官ニ任ズルコトヲ得ス

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ

法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停止スルコトヲ得

白耳義 第九十六條 法衙ノ訟廷ハ公行トス但其世治若クハ內行ノ爲ニ害アルヘキ者ハ

例ニアラズ而シテ其時ハ裁判ニ由テ法衙ヨリ公行ヲ停止スルコトヲ宣告ス

普西普 第九十三條 民事刑事トナク法衙ノ認廷ハ公行トス但シ風俗ヲ紊ルベキ内行事件

五十

ノ爲メニハ公行ヲ停ムルヲ得

第五編第十條 民事刑事ノ別ナク裁判ヲ任セラルタル判事ノ前ニ於テスル訴訟ハ

言語ヲ以テシ及ヒ公行トス●何レノ場合ニ於テモ右ノ通規ニ拘ラス特例ヲ用ル

ヲ得ヘキヤハ法律ニ於テ之ヲ定ム●刑事ノ訴訟ニハ檢察官ヲ置クベシ

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第九十五條 反逆及ビ國ノ内外安寧ヲ害スル重罪ニ付テハ兩院ノ前可クテ特置

法院ヲ命ズルヲ得(伯耳靈府ノ控訴院ヲ以テ特置法院トシ且ツ一院ヲ分ケテ

二部トシ一部ハ論告シテ一部ハ審裁ス)

第六篇 帝國法院ノ設置

第一條 帝國議會ノ代表スル王國及部屬ニ於テ權限爭議ノ訴及ヒ公權ノ訴件ヲ審

判スルカ爲メニ帝國法院一個所ヲ設置ス

第五篇第三條 軍事法院ノ權限ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

同 第四條 警察條例ニ背キ及ヒ租稅ニ關スル犯罪ヲ審判スルニ任スル裁判權ハ別ニ

法律ヲ以テ定ムヘシ

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラルタルノ訴訟ニシテ別ニ法

律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判ニ於テ受理スルノ限ニ在

ラス

第五篇第十四條 凡ソ訴訟ニ於テ司法上ノ事件ハ行政上ノ事件ト區別ス

同 第十五條 凡ソ行政官ハ既成ノ法律ニ依リ又ハ爾後制定スヘキ法律ニ依リ人民相

互ノ訴争ヲ裁判スルノ權ヲ有スル場合ニ當リ此裁決ニ依リ權利ヲ侵サレタル一

方ノ者ハ司法上ノ普通手續ヲ以テ自由ニ相手方ノ者ニ對シ控訴スルヲ得●此場

合ノ外ニ於テ行政官ノ裁判ニ由リ權利ヲ侵サレタル者ハ凡テ行政官ノ代理人ニ

五十一

對シテ行政裁判廳ニ控訴シ公ニ言語ヲ以テ論辨スルヲ得●行政裁判上應ニ於

テ審理スヘキ場合及其設立並ニ訴訟手續ハ別ニ法律ヲ以テ定ムヘシ

丁抹 第七十一條 法律ニ定タル規則ニ依リ司法ノ事ハ行政ト區別ス

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

五十一

獨逸 第七十三條 非常ノ入費アル場合ニ於テハ兩院ノ決定ヲ以テ金額ヲ借リ又帝國ノ名

ノ協賛ヲ經ヘシ

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會

ノ協賛ヲ經ヘシ

獨逸 第七十三條 非常ノ入費アル場合ニ於テハ兩院ノ決定ヲ以テ金額ヲ借リ又帝國ノ名

議ヲ以テ其負債ヲ保證スルヲ得ヘシ

普魯西 第九十九條 國ノ經費及ヒ其收入ハ必ス豫算表ニ記載スヘシ ●豫算表ハ必ス毎年之ヲ定ムヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

普魯西 第九十九條 現行ノ租稅ハ舊ニ依テ收入スヘシ

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

獨逸 第六十九條 帝國ノ歲出入ハ毎年之ヲ見積リ而シテ豫算表ニ記載スヘシ此豫算表

ハ其歲入ノ費用スル年ノ前年ニ於テ此下ニ記載スル所ノ規則ニ循ヒ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

普魯西 第一百四條 實費額ニシテ豫算表ヲ附ユルハ兩院ノ後認ヲ要ス ●出納ノ統計ハ統

計院之ヲ勘檢ス ●毎年ノ統計表ハ統計院ヨリ國債償却ノ部ニ注明ヲ加ヘ議院ニ休スヘシ ●統計院ノ構制及ヒ權限ハ別法ヲ以テ之ヲ定ム

第十二編 租稅

西班牙 第七十四條 政府ハ每歲翌年ノ國費豫算ノ概表及ヒ國費ヲ支ユルニキキ方法ノ意見書

ヲ國會ニ送致スヘシ且ツ租稅ノ徵收及ヒ其費用ノ報告書ヲ國會ニ併セ送リ以テ其檢査ト承認ヲ受ケルヲ要ス

白耳西 第一百五條 毎年兩院ハ統計ノ法律ヲ決メ及豫算ヲ評定ス政府一切ノ出納ハ必ス

豫算表及統計表ニ載スヘシ

普魯西 第九十九條 國ノ經費及ヒ其收入ハ必ス豫算表ニ記載スヘシ ●豫算表ハ必ス毎年之ヲ定ムヘシ

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

獨逸 第七十二條 帝國ノ諸入額ヲ費用スルヲ付キ大宰相ハ其責任ヲ解ク而シテ明細ナル豫算表ヲ毎年上院及院下ニ差出スヘシ

西班牙 第十五條 政府ハ國會開會ヨリ八日以内ニ前年ノ決算報告及ヒ翌年ノ豫算表ヲ代

議士院ニ下付スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

普魯西 第五十九條 千八百二十年一月十七日ノ法律ニ定メタル官地及ヒ森林ノ收入ハ王

家ノ內庫ニ屬ス

白耳西 第七十七條 各王ノ官費ハ法律ヲ以テ定ム(千八百六十五年ノ法律ニハ年額六十

第十九條 王家ノ經費ハ前十年間ノ平均ヲ以テ其額ヲ定ム ●國王ハ王位ニ屬スル宮殿離宮庭園及動産ヲ支配スルノ權ヲ有ス之ニ關スル主任ノ大臣ハ其目錄ヲ製シ置クヘシ ●將來王家ノ經費ハ太子王位ヲ嗣ク時集會スル所ノ兩院ニ於テ國王在位間ノ額ヲ定ム

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス  
第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅命ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
前項 場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス  
第六十二條 前出

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セズ又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度

ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 統計院ノ官吏ハ代議士院之ヲ撰任シ法律ヲ定ル所ノ任期ヲ以テ代任ス  
統計院ハ政部全局ノ出納及國庫ヨリ支出スル一切ノ會計ヲ検査清算スルニ任ス

豫算表ノ支費ニ於テ一項遞過費アルトナク又一度移アルトナキヲ監ス

政府各部ノ統計院定メ一切便様一切ノ文書ヲ收聚スルヲ任ス

統計表ハ統計院説明ヲ加ヘ兩院ニ附シ議決セシム

統計院ノ揭成ハ法律ニヨル

○第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルコト非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

普魯西 第一百七條 憲法ハ議院ノ通法ニ從ヒ修正スルヲ得●各員ノ議決ハ必ス過半數ノ全意ヲ要ス而シテ再議ニ至ル者ハ少クモ二十一日ノ空間アルヲ要ス

同 第一百八條 兩院ノ議員及ヒ凡テ政府ノ官吏ハ國王ニ向テ忠順ノ誓ヲ宣ヘ及ヒ中心憲法ヲ確守スルヲ誓フ●軍兵ハ憲法ニ誓ヲ宣ヘス●此憲法ニ乖カサル所ノ定法書及ヒ各法及ヒ勅令一切ノ條規其別法ニ由テ之ヲ廢セサル者ハ之ヲ存シテ舊ニ據ル

和蘭 第一百九十六條 凡ソ憲法修正ノ議案ハ其發議スル修正ノ箇條ヲ明書ス法律ハ其論決スル所ニ隨ヒ該議案ヲ討議スヘキヲ宣告ス(次條ニ揭示セルカ如ク憲法ヲ修正スル時ハ現在ノ國會ハ散スヘキニ依リ其前ニ此法律ヲ出スナリ)

同 第一百九十七條 此法律ヲ公布スルノ後國會ノ兩院ハ散解ス●新ニ撰舉シタル兩院ハ此議案ヲ討議ス然レ少クモ投票三分ノ二ヲ集ルニ非レハ該法律ニ因リテ發議シタル憲法ノ修正ヲ許認スルヲ得ズ

第七十四條 皇室典範ノ改正帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス 皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス 和蘭 第一百九十八條 攝政官政ヲ握ル時ニ際シテハ建國法若クハ繼嗣順序ノ變更ヲ議スル

コトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用弁タルニ拘ラズ此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ理由ノ効力ヲ有ス 歲出上政府ノ義ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

第六十三條 前出 普魯西 第一百九條 現行ノ租稅ハ舊ニ依テ收入スヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨

五十八  
 司法大臣 伯爵山田顯義  
 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義  
 陸軍大臣 伯爵大山巖  
 文部大臣 伯爵森有禮  
 逓信大臣 伯爵榎本武揚

336983

法律第二號

議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラレハマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ  
 第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル



第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ關位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ委任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ケ但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辞スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ケ

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受ケルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期トシ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聴ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經シテ之ヲ議決スルコトヲ得但

シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラレヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續

セズ但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 祕密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用弗スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 祕密會議ハ刊行スルコトヲ許サズ

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人ノ贊成アルニ非サルハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時ヲモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲コ議員ノ

演説ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員コ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時ヲリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會院ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サントスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙

議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ

次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時アリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用井可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

附九

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム  
請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下ス  
ヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ  
請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請  
願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請  
議書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議  
院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違  
フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キ  
ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受テ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府  
ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコ  
トヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得  
サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者  
トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期  
シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ

付審査スルコトヲ得ス

附十二

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラレ、コ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請假辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ出席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ關員ヲ生ズルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用キルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

附十三

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ

求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

一 公開シタル議場ニ於テ醜責ス

二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辞ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應ゼザル

ニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キ

タルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セザ

ル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ衆議院ニ於テハ之ヲ除

スヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附錄ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會

ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵子爵森有禮
- 逓信大臣 伯爵子爵榎本武揚

法律第三號

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命ジ選舉長ヲラシムヘシ

第四條 一 市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長ヲラシムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引

續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ

限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅

資格算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿調製ノ

期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル

者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ

限ル

第九條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼スルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

附十七



第十二條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白癡ノ者
  - 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
  - 三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
  - 四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
  - 五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
  - 六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
  - 七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者
- 第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ  
選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ舉選長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテコ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ

選舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由證憑ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取りタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判官渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取りタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設テ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルコト足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ輪ヲ設テ其ノ一ハ町村長之ヲ管守・其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用非選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由テ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由テ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラレヘキ裁判官渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由テ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長其ノ由テ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲グル投票ハ無効トス  
一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ

三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用井又ハ誤字ニ係ルモノ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用井タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ

經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

附二十六

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ算計スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

#### 第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出

ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ其ノ當選ヲ辞シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辞シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條

第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辞シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

#### 第十章 議員ノ任期及補闕選舉

附二十七

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應フルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルト

キハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡シ武器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サズ

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サズ

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演説討論及喧譟ヲ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判官渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁

判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條

審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條

原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由テ新聞紙又ハ其ノ他ノ法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條

控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條

控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ内務大臣ニ付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條

當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條

訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條

當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條

納稅額年齢住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セテレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條

投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條

直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條

投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條

選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第一百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ



市長兼テ之ヲ掌ルヘス

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ選クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第十條 選舉人名簿調製初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

衆議院議員選舉法附錄

東京府

議員總數十二人

- 第一區 ○麴町區 ○麻布區 ○赤坂區
  - 第二區 ○芝區
  - 第三區 ○京橋區
  - 第四區 ○日本橋區
  - 第五區 ○本所區 ○深川區
  - 第六區 ○淺草區
  - 第七區 ○神田區
  - 第八區 ○下谷區 ○本郷區
  - 第九區 ○小石川區 ○牛込區 ○四谷區
  - 第十區 ○東多摩郡 ○南豊島郡 ○北豊島郡
  - 第十一區 ○南足立郡 ○南葛飾郡
  - 第十二區 ○荏原郡 ○伊豆七島
- 京都府
- 第一區 ○上京區
  - 第二區 ○下京區

議員總數七人

- 第三區 ○愛宕郡 ○葛野郡 ○乙訓郡 ○紀伊郡
- 第四區 ○宇治郡 ○久世郡 ○相樂郡 ○綴喜郡
- 第五區 ○南桑田郡 ○北桑田郡 ○船井郡 ○天田郡
- 第六區 ○何鹿郡 ○加佐郡 ○與謝郡 ○中郡 ○竹野郡
- 熊野郡

大阪府

議員總數十人

- 第一區 ○西區
- 第二區 ○東區
- 第三區 ○南區 ○北區
- 第四區 ○西成郡 ○東成郡 ○住吉郡
- 第五區 ○島上郡 ○島下郡 ○豐島郡 ○能勢郡
- 第六區 ○茨田郡 ○交野郡 ○履長郡 ○河內郡
- 若江郡 ○高安郡
- 第七區 ○石川郡 ○八上郡 ○古市郡 ○安宿郡 ○錦郡
- 丹南郡 ○志紀郡 ○丹北郡 ○大縣郡 ○澁川郡

神奈川縣

議員總數七人

- 第八區 ○堺區 ○大鳥郡 ○泉郡
- 第九區 ○南郡 ○日根郡
- 第一區 ○橫濱區
- 第二區 ○久良岐郡 ○橘樹郡 ○都筑郡
- 第三區 ○南多摩郡 ○西多摩郡 ○北多摩郡
- 第四區 ○三浦郡 ○鎌倉郡
- 第五區 ○高座郡 ○愛甲郡 ○津久井郡
- 第六區 ○大住郡 ○洵綾郡 ○足柄上郡 ○足柄下郡

兵庫縣

議員總數十二人

- 第一區 ○神戸區
- 第二區 ○武庫郡 ○菟原郡 ○川邊郡 ○有馬郡
- 第三區 ○多紀郡 ○氷上郡 ○美囊郡
- 第四區 ○八部郡 ○明石郡
- 第五區 ○加古郡 ○印南郡
- 第六區 ○加東郡 ○多可郡 ○加西郡

附三十八

- 第七區 ○飾東郡 ○飾西郡 ○神東郡 ○神西郡 一人
- 第八區 ○揖東郡 ○揖西郡 ○赤穂郡 ○佐用郡 二人
- 第九區 ○城崎郡 ○美含郡 ○氣多郡 ○出石郡 二人
- 第十區 ○津名郡 ○三方郡 ○養父郡 ○朝來郡 一人

長崎縣

- 第一區 ○長崎區 ○西彼杵郡 二人
- 第二區 ○東彼杵郡 ○北高來郡 一人
- 第三區 ○南高來郡 一人
- 第四區 ○北松浦郡 ○壹岐郡 ○石田郡 一人
- 第五區 ○南松浦郡 一人
- 第六區 ○上縣郡 ○下縣郡 一人

議員總數七人

新潟縣

- 第一區 ○新潟區 ○西蒲原郡 二人
- 第二區 ○北蒲原郡 ○東蒲原郡 ○巖船郡 二人

議員總數十三人

埼玉縣

- 第三區 ○中蒲原郡 一人
- 第四區 ○南蒲原郡 一人
- 第五區 ○古志郡 ○三島郡 二人
- 第六區 ○刈羽郡 一人
- 第七區 ○北魚沼郡 ○南魚沼郡 ○中魚沼郡 ○東頸城郡 二人
- 第八區 ○中頸城郡 ○西頸城郡 二人
- 第九區 ○雜太郡 ○加茂郡 ○羽茂郡 一人

議員總數八人

群馬縣

- 第一區 ○北足立郡 ○新座郡 一人
- 第二區 ○人間郡 ○高麗郡 ○横見郡 ○比企郡 二人
- 第三區 ○南埼玉郡 ○北葛飾郡 ○中葛飾郡 二人
- 第四區 ○北埼玉郡 ○大里郡 ○碓羅郡 ○榛澤郡 二人
- 第五區 ○男衾郡 ○兒玉郡 ○賀美郡 ○那珂郡 ○秩父郡 一人

議員總數五人

附三十九

- 第一區 ○東群馬郡 ○南勢多郡 ○利根郡 ○北勢多郡 一人

- 第二區 ○新田郡 ○山田郡 ○邑樂郡
- 第三區 ○佐位郡 ○那波郡 ○綠野郡 ○多胡郡
- 第四區 ○南甘樂郡 ○西群馬郡 ○片岡郡 ○吾妻郡
- 第五區 ○北甘樂郡 ○碓氷郡

議員總數九人

千葉縣

- 第一區 ○千葉郡 ○市原郡
- 第二區 ○東葛飾郡 ○印旛郡 ○下埴生郡 ○南相馬郡
- 第三區 ○香取郡
- 第四區 ○海上郡 ○匝瑳郡
- 第五區 ○山邊郡 ○武射郡
- 第六區 ○夷隅郡 ○上埴生郡 ○長柄郡
- 第七區 ○望陀郡 ○周准郡 ○天羽郡
- 第八區 ○安房郡 ○平 郡 ○朝夷郡 ○長狹郡
- 第一區 ○東茨城郡 ○鹿島郡 ○行方郡

議員總數八人

茨城縣

- 第二區 ○多賀郡 ○久慈郡 ○那珂郡
- 第三區 ○西茨城郡 ○眞壁郡
- 第四區 ○豐田郡 ○結城郡 ○岡田郡 ○西葛飾郡
- 第五區 ○猿島郡
- 第六區 ○筑波郡 ○新治郡 ○北相馬郡
- 第六區 ○信太郡 ○河內郡

議員總數五人

栃木縣

- 第一區 ○河內郡 ○芳賀郡
- 第二區 ○上都賀郡 ○下都賀郡 ○寒川郡
- 第三區 ○安蘇郡 ○足利郡 ○梁田郡
- 第四區 ○鹽谷郡 ○那須郡

議員總數四人

奈良縣

- 第一區 ○添上郡 ○添下郡 ○山邊郡 ○廣瀨郡
- 第二區 ○式上郡 ○式下郡 ○宇陀郡 ○十市郡
- 高市郡 ○葛上郡 ○葛下郡 ○忍海郡

三重縣

○第三區 ○宇智郡 ○吉野郡

附四十二

議員總數七人

○第一區 ○安濃郡 ○一志郡 ○奄藝郡 ○河曲郡

○第二區 ○三重郡 ○鈴鹿郡 ○朝明郡

○第三區 ○桑名郡 ○員辨郡 ○多氣郡

○第四區 ○飯高郡 ○飯野郡 ○英虞郡

○第五區 ○度會郡 ○答志郡 ○北牟婁郡

○第六區 ○南牟婁郡 ○阿拜郡 ○山田郡 ○名張郡 ○伊賀郡

愛知縣

○第一區 ○名古屋區

議員總數十一人

○第二區 ○愛知郡

○第三區 ○東春日井郡 ○西春日井郡

○第四區 ○丹羽郡 ○葉栗郡

○第五區 ○中島郡

○第六區 ○海東郡 ○海西郡

靜岡縣

○第七區 ○知多郡 ○幡豆郡 ○東加茂郡

議員總數八人

○第八區 ○碧海郡 ○西加茂郡 ○寶飯郡

○第九區 ○額田郡 ○南設樂郡

○第十區 ○北設樂郡 ○八名郡

○第十一區 ○渥美郡

○第一區 ○安倍郡 ○有渡郡

○第二區 ○富士郡 ○庵原郡

○第三區 ○志太郡 ○益津郡

○第四區 ○榛原郡 ○佐野郡 ○城東郡

○第五區 ○周智郡 ○豐田郡 ○磐田郡

○第六區 ○長上郡 ○敷知郡 ○濱名郡 ○引佐郡

○第七區 ○那賀郡 ○賀茂郡 ○君澤郡 ○田方郡

山梨縣

議員總數三人

附四十三

滋賀縣

- 第一區 ○西山梨郡 ○北巨摩郡 ○中巨摩郡
- 第二區 ○東山梨郡 ○南都留郡 ○北都留郡
- 第三區 ○東八代郡 ○西八代郡 ○南巨摩郡
- 第一區 ○滋賀郡 ○高島郡
- 第二區 ○甲賀郡 ○野洲郡 ○栗太郡
- 第三區 ○犬上郡 ○愛知郡 ○神崎郡 ○蒲生郡
- 第四區 ○西淺井郡 ○東淺井郡 ○伊香郡 ○阪田郡

議員總數五人

岐阜縣

- 第一區 ○厚見郡 ○方縣郡 ○各務郡
- 第二區 ○不破郡 ○安八郡
- 第三區 ○海西郡 ○下石津郡 ○多藝郡 ○上石津郡
- 第四區 ○羽栗郡 ○中島郡 ○池田郡 ○本巢郡 ○席田郡
- 第五區 ○山縣郡 ○武儀郡 ○郡上郡

議員總數七人

長野縣

- 第一區 ○上水內郡 ○更級郡 ○下高井郡
- 第二區 ○下水內郡 ○上高井郡
- 第三區 ○小縣郡 ○埴科郡 ○南安曇郡 ○北安曇郡
- 第四區 ○西筑摩郡 ○東筑摩郡
- 第五區 ○南佐久郡 ○北佐久郡
- 第六區 ○上伊那郡 ○諏訪郡
- 第七區 ○下伊那郡
- 第六區 ○加茂郡 ○可兒郡 ○土岐郡 ○惠那郡
- 第七區 ○大野郡 ○益田郡 ○吉城郡

議員總數八人

宮城縣

- 第一區 ○仙臺區 ○名取郡 ○宮城郡
- 第二區 ○柴田郡 ○刈田郡 ○伊具郡 ○亘理郡
- 第三區 ○黒川郡 ○加美郡 ○志田郡 ○玉造郡
- 第四區 ○栗原郡 ○登米郡
- 第七區 ○下伊那郡

議員總數五人

福島縣

○第五區 ○桃生郡 ○壯鹿郡 ○本吉郡

附四十六  
議員總數七人

○第一區 ○信夫郡 ○伊達郡

○第二區 ○安達郡 ○安積郡

○第三區 ○田村郡 ○巖瀨郡 ○東白川郡 ○西白河郡

○第四區 ○南會津郡 ○北會津郡 ○大沼郡 ○耶麻郡

○第五區 ○菊多郡 ○磐前郡 ○磐城郡 ○檜葉郡

○河沼郡 ○行方郡 ○宇多郡

○標葉郡

○南巖手郡 ○北巖手郡 ○紫波郡 ○二戸郡 ○南九戸郡

○東閉伊郡 ○中閉伊郡 ○北閉伊郡

○稗貫郡 ○東和賀郡 ○西和賀郡 ○西閉伊郡

○南閉伊郡

○第一區 ○南巖手郡 ○北巖手郡 ○紫波郡 ○二戸郡 ○南九戸郡

○第二區 ○東閉伊郡 ○中閉伊郡 ○北閉伊郡

○第三區 ○稗貫郡 ○東和賀郡 ○西和賀郡 ○西閉伊郡

○第四區 ○南閉伊郡

○第五區 ○南巖手郡 ○北巖手郡 ○紫波郡 ○二戸郡 ○南九戸郡

○東閉伊郡 ○中閉伊郡 ○北閉伊郡

○稗貫郡 ○東和賀郡 ○西和賀郡 ○西閉伊郡

○南閉伊郡

○第一區 ○南巖手郡 ○北巖手郡 ○紫波郡 ○二戸郡 ○南九戸郡

○第二區 ○東閉伊郡 ○中閉伊郡 ○北閉伊郡

○第三區 ○稗貫郡 ○東和賀郡 ○西和賀郡 ○西閉伊郡

○第四區 ○南閉伊郡

○第五區 ○南巖手郡 ○北巖手郡 ○紫波郡 ○二戸郡 ○南九戸郡

○東閉伊郡 ○中閉伊郡 ○北閉伊郡

○稗貫郡 ○東和賀郡 ○西和賀郡 ○西閉伊郡

○南閉伊郡

青森縣

○第四區 ○江刺郡 ○膽澤郡 ○氣仙郡  
○第五區 ○西磐井郡 ○東磐井郡  
議員總數四人

○第一區 ○東津輕郡 ○上北郡 ○下北郡 ○三戸郡

○第二區 ○北津輕郡 ○南津輕郡

○第三區 ○中津輕郡 ○西津輕郡  
議員總數六人

○第一區 ○南村山郡 ○東村山郡 ○西村山郡

○第二區 ○東置賜郡 ○南置賜郡 ○西置賜郡

○第三區 ○飽海郡 ○西田川郡 ○東田川郡

○第四區 ○最上郡 ○北村山郡  
議員總數五人

秋田縣

○第一區 ○南秋田郡

○第二區 ○山本郡 ○北秋田郡 ○鹿角郡

○第三區 ○河邊郡 ○由利郡

○第四區 ○仙北郡 ○平鹿郡 ○雄勝郡  
附四十七

福井縣

- 第一區 ○足羽郡 ○大野郡
- 第二區 ○吉田郡 ○坂井郡
- 第三區 ○南條郡 ○今立郡
- 第四區 ○三方郡 ○遠敷郡 ○丹生郡 ○敦賀郡

附四十八  
議員總數四人

石川縣

- 第一區 ○金澤區 ○石川郡
- 第二區 ○能美郡 ○江沼郡
- 第三區 ○河北郡 ○羽咋郡 ○鹿島郡
- 第四區 ○鳳至郡 ○珠洲郡

議員總數六人

富山縣

- 第一區 ○上新川郡 ○婦負郡
- 第二區 ○下新川郡
- 第三區 ○射水郡
- 第四區 ○蠮波郡

議員總數五人

鳥取縣

議員總數三人

島根縣

- 第一區 ○邑美郡 ○法美郡 ○巖井郡 ○八上郡
- 第二區 ○八東郡 ○智頭郡 ○河村郡 ○久米郡
- 第三區 ○高草郡 ○氣多郡 ○日野郡
- 第三區 ○八橋郡 ○會見郡
- 第三區 ○汗入郡

議員總數六人

岡山縣

- 第一區 ○島根郡 ○秋鹿郡 ○意宇郡 ○飯石郡
- 第二區 ○能義郡 ○仁多郡 ○大原郡
- 第三區 ○出雲郡 ○楯縫郡 ○神門郡
- 第四區 ○遷摩郡 ○安濃郡 ○邑智郡
- 第五區 ○那賀郡 ○美濃郡 ○鹿足郡
- 第六區 ○周吉郡 ○穩地郡 ○海士郡 ○知夫郡

議員總數八人

附四十九



附五十

廣島縣

- 第三區 ○都宇郡 ○窪屋郡 ○賀陽郡 ○下道郡
  - 第四區 ○淺口郡 ○小田郡 ○後月郡
  - 第五區 ○上房郡 ○川上郡 ○香多郡 ○阿賀郡
  - 第六區 ○眞島郡 ○大庭郡 ○西條郡 ○西北條郡
  - 第七區 ○勝北郡 ○勝南郡 ○吉野郡 ○英田郡
  - 久米北條郡 ○久米南條郡
- 議員總數十八

山口縣

- 第九區 ○蘆田郡 ○品治郡 ○神石郡 ○甲奴郡
  - 奴可郡 ○三上郡 ○惠蘇郡
- 議員總數七人

和歌山縣

- 第一區 ○吉敷郡 ○美禰郡 ○厚狹郡 ○佐波郡
  - 第二區 ○阿武郡 ○見島郡 ○大津郡
  - 第三區 ○赤間關區 ○豐浦郡
  - 第四區 ○都濃郡 ○熊毛郡 ○大島郡
  - 第五區 ○玖珂郡
- 議員總數五人

德島縣

- 第一區 ○和歌山區 ○名草郡 ○海部郡 ○有田郡
  - 第二區 ○伊都郡 ○那賀郡
  - 第三區 ○日高郡 ○西牟婁郡 ○東牟婁郡
  - 第一區 ○名東郡 ○勝浦郡
  - 第二區 ○那賀郡 ○海部郡
  - 第三區 ○名西郡 ○阿波郡 ○麻植郡
- 議員總數五人

附五十一

香川縣

○第四區 ○板野郡  
 ○第五區 ○美馬郡  
 ○三好郡

附五十二

議員總數五人

愛媛縣

○第一區 ○香川郡  
 ○第二區 ○大內郡  
 ○第三區 ○大內郡  
 ○第四區 ○大內郡  
 ○第五區 ○大內郡  
 ○第六區 ○大內郡

議員總數七人

高知縣

○第一區 ○土佐郡  
 ○第二區 ○高岡郡  
 ○第三區 ○安藝郡  
 ○第四區 ○吾川郡

議員總數四人

瀨岡縣

議員總數九人

大分縣

○第一區 ○福岡區  
 ○第二區 ○福岡區  
 ○第三區 ○福岡區  
 ○第四區 ○福岡區  
 ○第五區 ○福岡區  
 ○第六區 ○福岡區  
 ○第七區 ○福岡區  
 ○第八區 ○福岡區

議員總數六人

附五十三

附五十四

- 第一區 ○大分郡
- 第二區 ○北海部郡 ○南海部郡
- 第三區 ○大野郡 ○直入郡
- 第四區 ○速見郡 ○玖珠郡 ○日田郡
- 第五區 ○西國東郡 ○東國東郡
- 第六區 ○下毛郡 ○宇佐郡

議員總數四人

佐賀縣

- 第一區 ○佐賀郡 ○神崎郡 ○小城郡 ○基肄郡
- 第二區 ○養父郡 ○三根郡
- 第三區 ○東松浦郡 ○西松浦郡 ○藤津郡
- 第一區 ○熊本區 ○飽田郡 ○託麻郡 ○宇土郡
- 第二區 ○玉名郡
- 第三區 ○山鹿郡 ○山本郡 ○菊池郡
- 合志郡 ○阿蘇郡

議員總數八人

熊本縣

- 第四區 ○上益城郡 ○下益城郡
- 第五區 ○八代郡 ○葦北郡 ○球磨郡
- 第六區 ○天草郡

宮崎縣

- 第一區 ○宮崎郡 ○北那珂郡 ○南那珂郡 ○兒湯郡
- 第二區 ○北諸縣郡 ○西諸縣郡 ○東諸縣郡
- 第三區 ○東臼杵郡 ○西臼杵郡

議員總數三人

鹿兒島縣

- 第一區 ○鹿兒島郡 ○谿山郡 ○北大隅郡
- 第二區 ○熊毛郡 ○馭謨郡
- 第三區 ○給黎郡 ○揖宿郡 ○頴娃郡 ○川邊郡
- 第四區 ○高城郡 ○出水郡 ○南伊佐郡
- 第五區 ○薩摩郡 ○甑島郡
- 第六區 ○菱刈郡 ○始良郡 ○桑原郡
- 西贈吻郡 ○北伊佐郡

議員總數七人

附五十五

附五十六  
 ○第六區 ○南諸縣郡 ○南大隅郡 ○肝屬郡 ○東嚙嗙郡 一人  
 ○第七區 ○大島郡 一人

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵黒田清隆  
 樞密院議長 伯爵伊藤博文  
 外務大臣 伯爵大隈重信  
 海軍大臣 伯爵西郷從道  
 農商務大臣 伯爵井上馨  
 司法大臣 伯爵山田顯義  
 大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義  
 陸軍大臣 伯爵大山巖  
 文部大臣 伯爵森有禮  
 遞信大臣 伯爵覆本武揚

法律第四號

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租税及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

附五十九

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿メサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ各テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用井左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入總算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翠年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求

若ハ仕佛ノ請求ヲ爲サルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ

翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

附六十二

第二十二條 數年ナ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各一之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルコトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

- 第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ
- 第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ
- 第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカヲサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈善ノ爲ニ設立セル救有所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル

第十四 農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十五 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

附六十三

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歳計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黒田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 逓信大臣 伯爵榎本武揚



勅令第十一號

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各、其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條

皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條

公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條

伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各、其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條

國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條

國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有當議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條

貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條

貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條

議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條

議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セララルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條

此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條

將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

朕憲法ヲ發布スルニ當リ此盛典ヲ表シ恩澤ヲ施サンカ爲ニ特ニ命シテ左ノ條項ニ依リ大赦ヲ行ハシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 子爵森有禮
- 遞信大臣 子爵榎本武揚

勅令第十二號

第一條 本令發布以前ニ於テ左ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

- 一 刑法第一百七條第一百九條ノ罪
- 二 刑法第二百一十一條第二百二十三條第二百二十五條第二百二十六條第二百二十七條ノ罪
- 三 刑法第二十九條第三百十條第三百一十一條第三百一十二條第三百一十三條第三百一十四條ノ罪
- 四 刑法第三百三十六條第三百二十七條第三百二十八條ノ罪
- 五 刑法第四百一十一條ノ罪
- 六 陸軍刑法第五十條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條ノ罪
- 七 陸軍刑法第六十六條第六十七條ノ罪
- 八 陸軍刑法第六十九條第七十條第七十一條ノ罪
- 九 陸軍刑法第九十三條第九十四條ノ罪
- 十 陸軍刑法第九十九條第一百條ノ罪
- 十一 海軍刑法第五十六條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條

十二 海軍刑法第八十六條第八十七條ノ罪

十三 海軍刑法第一百條第一百一條ノ罪

十四 海軍刑法第一百十條第一百十一條ノ罪

十五 海軍刑法第二百二十六條ノ罪

十六 保安條例ノ罪

十七 集會條例ノ罪

十八 治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ爆發物取締罰則ヲ犯ス罪

十九 新聞紙條例第二十一條第二十二條ニ違ヒ第三十條第三十一條ニ該ル罪及ヒ第三十

二條ヲ犯ス罪但第三十條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞乱スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラヌ

ル新聞紙ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス

政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第一條第三條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第十

六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十九條ニ該ル罪

出版條例第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第二十四條ヲ

犯ス罪但第二十七條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞乱スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラヌ

文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス

政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第三條ニ違ヒ第二十一條ニ該ル罪第六條第七條ニ

違ヒ第二十二條第二十三條ニ該ル罪及ヒ第十五條第十九條第二十條ニ違ヒ第二十

七條ニ該ル罪

第二條 舊法ニ依リ處斷セラレタル罪ト雖モ其性質前條ニ記載シタル罪ト同一ナル者ハ之

ヲ赦免ス

第三條 數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者最重ノ罪赦免ヲ得タル場合ト雖モ他ノ罪ニ其

効ヲ及ボサス

第四條 赦免ヲ得ルト雖モ既ニ徵收シタル罰金料及ヒ沒收シタル物件ハ還付セス

第五條 陸軍大臣海軍大臣司法大臣ハ本令ノ施行ニ關シ必要ノ指揮ヲ爲ス可シ



●松成堂出版目錄直譯之部

- パーレー氏萬國史直譯 全貳冊
- スウ井ン氏萬國史直譯 全壹冊
- トン氏萬國史直譯 全壹冊
- ビ子チ氏英文典直譯 全壹冊
- クワケン氏英文典直譯 全壹冊
- ボス氏米國史直譯 合本 全壹冊
- グードリッヂ氏英國史直譯 合本全壹冊
- クワッケンホス氏英文典直譯 全壹冊
- スウキンントン氏英文典直譯 全壹冊
- ブラナン氏英文典直譯 全壹冊
- ナシヨ 第二リーマ直譯 全壹冊
- ナシヨナル 第三リーマ直譯 全壹冊
- ナシヨナル 第四リーマ直譯 全壹冊
- ナシヨナル 第五リーマ直譯 全壹冊
- ロングマンズ 第三リーマ直譯 全壹冊
- ロングマンズ 第四リーマ直譯 全壹冊
- ロングマンズ 第五リーマ直譯 全壹冊
- ミナル氏地理書直譯 全壹冊
- スウキン 第三リーマ直譯 全壹冊
- トン氏 第四リーマ直譯 全壹冊
- スウキン 第五リーマ直譯 全壹冊
- トン氏 第二リーマ直譯 全壹冊
- チヤンバ 第三リーマ直譯 全壹冊
- チヤンバ 第四リーマ直譯 全壹冊
- チヤンバ 第五リーマ直譯 全壹冊

松成堂新版書籍廣告

評論 德川世記

洋製金文字入美本 全一冊 特別正價金五十五錢 通運賃金十錢

飯田宇宙君著山岡鐵舟君題  
 板垣如雲君其他諸名家合評  
 伊加倉隱龍君及内田芳溪君  
 序大蘇芳年君石版密書挿入 第三版

山陽の日本外史の如しと雖も只憾むらくは徳川の記事に至り甚だ虚忘の説あると  
 を去れば其後○外史●畧史徳川畧史或は徳川十五代記又ハ秘文録など頻々出版ありと  
 雖も皆な要するに徳川時代の腐れ儒者等が固陋管見或は爲めにその所ありて殊更作り設  
 けたる過稱溢美の虚説を寫せり故に實録々々と雖も豈に眞成の實録有んや本書は曩きに舊  
 自由新聞及び繪入自由新聞の社員たりし飯田先生が博識を以て舊某諸侯の秘書を本とせ  
 る証據を掲げて述べられざる者なり因て其記事の珍且奇なる未だ  
 世人が夢にだも見しとのなき説のみ多く今其二を記載せれば

●家康の先祖は平氏にして松  
 ●家康の先祖は平氏にして松  
 ●家康の先祖は平氏にして松

の軍師は眞田大助なりしと等其他數へ盡そに遑わらず實に無類の正史なり若し舊幕の事を  
 知らんと欲せば本書を置ては世の中に實録決して御座なく候増して齧頭には板垣如雲君其  
 他諸名士の合評あり江湖の諸君士一本を購ひ以て弊店が皆様方を欺むかざるを知り玉ふべ

無一散人編

● 織手之刃 一冊 價五錢 郵稅四錢

此書は、昔時、某藩の苛政を憤り、烈女阿不二、織々たる玉手に、自由の刃ととりて、嬖妾某を刺殺せし、實録也

不言居士序杏堂散士譯述

● 妖 怪 船 全一冊 價十二錢 郵稅四錢

此書は、彼の、有名なる獨逸の小説家か作りしを譯したる者にて、實に、奇々怪々ある、珍書なり

齋藤八郎先生譯

● スウヰン 英文典直譯 全壹冊 價二十五錢 郵稅十二錢

齋藤八郎先生譯

● クロツケ 英文典直譯 全壹冊 價二十五錢 郵稅十二錢

齋藤八郎先生譯

● ヒチ 英文典直譯 全壹冊 價二十錢 郵稅十錢

齋藤八郎先生譯

● フラヲ 英文典直譯 全壹冊 價二十五錢 郵稅十二錢

此書は、彼の、有名なる諸大家の原書を直譯せしものにて、尤も、意味に誤りなからめんと勉められたるれば、普通ノ直譯書と異なり、希はくは、江湖の諸君、速かに、購求して、其可也を試みらるべし

從一位三條公。從四位元田先生題辭

從三位平山先生。從五位重野先生

從六位田中先生。從七位元田先生

正七位野中先生著述

### ● 日本道德原論 全

正價金廿五錢 郵稅金十錢 郵券代用一割増

是書ハ我大日本帝國ノ人民上下一般遵守スベキ道德ノ原論ヲ極メテ平易簡明ニ述ベラレシメ書ナレバ諸大人方ノ序跋ニモ載セラレタル如ク學校ノ教官及ヒ神佛各宗ノ教導職ハ云ニ及ハズ苟モ我國ノ臣民タル者必ズ一部ヲ机上ニ置キ以テ之ヲ熟讀セハ皆忠君愛國ノ心ヲ喚發シ昭代皇化ノ神補タルコト必セリ

### 第二版 文實地演說

正四位山岡鐵舟君題 日本 藤田先生譯者

洋裝金文字入總黒々全一冊特別正價四十五錢石版密書肖像入和洋紙枚數五百ペーシ除郵稅廿五錢

本書ハ海ノ内外ヲ問ハス全世界諸名家ノ演說ヲ藤田先生一昨年各國漫遊ノ際歐米諸國ノ國會傍聽ニ各紳士ノ宴會ニ招應セラレシ時演說談話中尤モ國家ニ必用ナル●政治法律衛生商法ニ關係スル卓說立論即チ●英ノグラッドストン氏佛ノ●ガムベツタ氏其他四十有餘名ガ滿腔ノ明說ヲ吐露セシ者ニシテ一聲ノ下滿坐ノ聽衆ヲシテ慷慨國ヲ思フルノ熱情ヲ億万ノ心肝ニ貫徹セシム今春歸朝閑居ノ餘暇僅カ記臆スル處ヲ陳述サレタ者ニメ又之ニ加フルニ本邦●伊藤總理大臣ノ意見書並ニ●陸奥宗光君●福澤諭吉先生ノ名論ヲ纂集シテ一卷トナシ名ケテ文實地演說ト云フ方今青年諸生ノ非理空論ヲ辨シテ徒ニ世ノ喝采ヲ博セントシ望ム者トハ天淵ヲ隔ナラズ卷中諸氏ノ如キハ世ノ毀譽ヲ顧ミズ專ラ實地ヲ應用シテ各邦國ノ利益ヲ增加センコトヲ希望セラル、者ニシテ一モ偶然虛論ニ非ス看客一讀シテ●各先生持ノ論アル處ヲ察セヨ

從五位子爵長谷信道君著

●年中行事教育小兒遊戲全二冊 價二十錢 郵稅八錢

此書は三大節より始め、年中、旨と心得べき事からを記し、又、遊び事の爲となる事を、教へ、家庭教育の旨を含めたる、古今未曾有の珍書なり

税所敦子先生序 金桂女史編輯

下田歌子先生序 全三冊 價五十錢 郵稅十八錢

●列女かゞみ 此書は、少女、妻女、姑母、孀婦等の心得、及び、其鑑とすべき、列女の小傳をそへし、及、女兒教育上、必須の書也

故 物集高世先生著

●葎屋文集全一冊 價二十錢 郵稅八錢

此書は鎮西の碩學葎屋物集高世先生の歌集なり、今般再版に付大方諸君に告ぐ

故 特物高世先生著

●葎屋文集全一冊 價二十錢 郵稅八錢

此書は、前書と同じく、葎屋先生の文集なり先生の文學に精微なること、今更喋々を須ひざるなり

故 物集高世先生著

●歌學新論全一冊 價八錢 郵稅四錢

此書は、先生、六十餘年の工夫を以て纔かに得られし歌學上の新珠軸にして先人未發の卓論なり、其哲學よかなんが爲めに、詩學文學にも應用せらるゝ、亦最妙といふべし

物集高見先生著

●かなのしをり 全一冊 價四十錢 郵稅十六錢

此書は清音字、濁音字、音便字、假字づかいを見るに、机右缺く可らざる袖珍字書なり

蓬萊山人序 無一散人著

●實地金のなる木 全一冊 價十錢 郵稅四錢

此書は、世人に金儲けの方法を手短かに教へられたる一種特異の珍書なり

第三版

日本藤田治明先生譯著

スウ井ノ

トノ氏

### 萬國史直譯

太古史之部 中古之部 近世史之部 原書全部 美製合本 紙數八百餘頁 價五十五錢 郵稅二十錢 郵限

日本藤田治明先生譯著

第三版

パーレー氏

### 萬國史直譯

亞細亞洲部 亞非利加部 歐洲部 原書全部 美製合本 全二冊 正價金五十五錢 郵稅二十錢 郵限 八百餘頁

此書ハ内國教科書ニ編入ニ付數万部摺立内見本之爲メ三千部ヲ限リ本日ヨリ向十五日間特別金四十錢ヲ以テ賣渡ス御望ノ諸君至急申込テハ送金着次第引換ニ送本致候事  
英學講習書ノ中最モ適切ノ評ハ正價ニ復ス但郵便切手代壹割増事  
國史ナリ世間此書ノ直譯アリト雖モ僅々原書中ノ一部分ニ過ギザル上其價貴キハ一萬者ノ不便トスル所也今藤田治明先生初學者ノ解シ易キ主トシテ殘ラズ明シテ公ケヌ一々見出シテ設ケ且ツ太古史ヨリ中近世史ヲ以テ盛ニ發賣ス英學熱心ノ諸君ハ速ニ購讀其紙數實コ八百餘頁去レド非常ノ廉價ヲ以テ盛ニ發賣ス英學熱心ノ諸君ハ速ニ購讀

文部大臣從二位子爵森 有禮公書翰  
式部次官從四位男爵高崎正風君口述

○紀元節歌乃解

全一冊

定價金七四錢

山崎成美編

○小學字類

全二冊

定價金十五錢

○新撰東京全圖

全壹折

定價金二十六錢

○新撰日本全圖

全壹折

定價金廿五錢

○清佛船栗毛

洋製全壹冊  
和製全二冊

定價金廿五錢

○近世悲憤烈士傳

洋製美本  
全壹冊

定價金廿五錢

○日本憲法用文

全壹冊

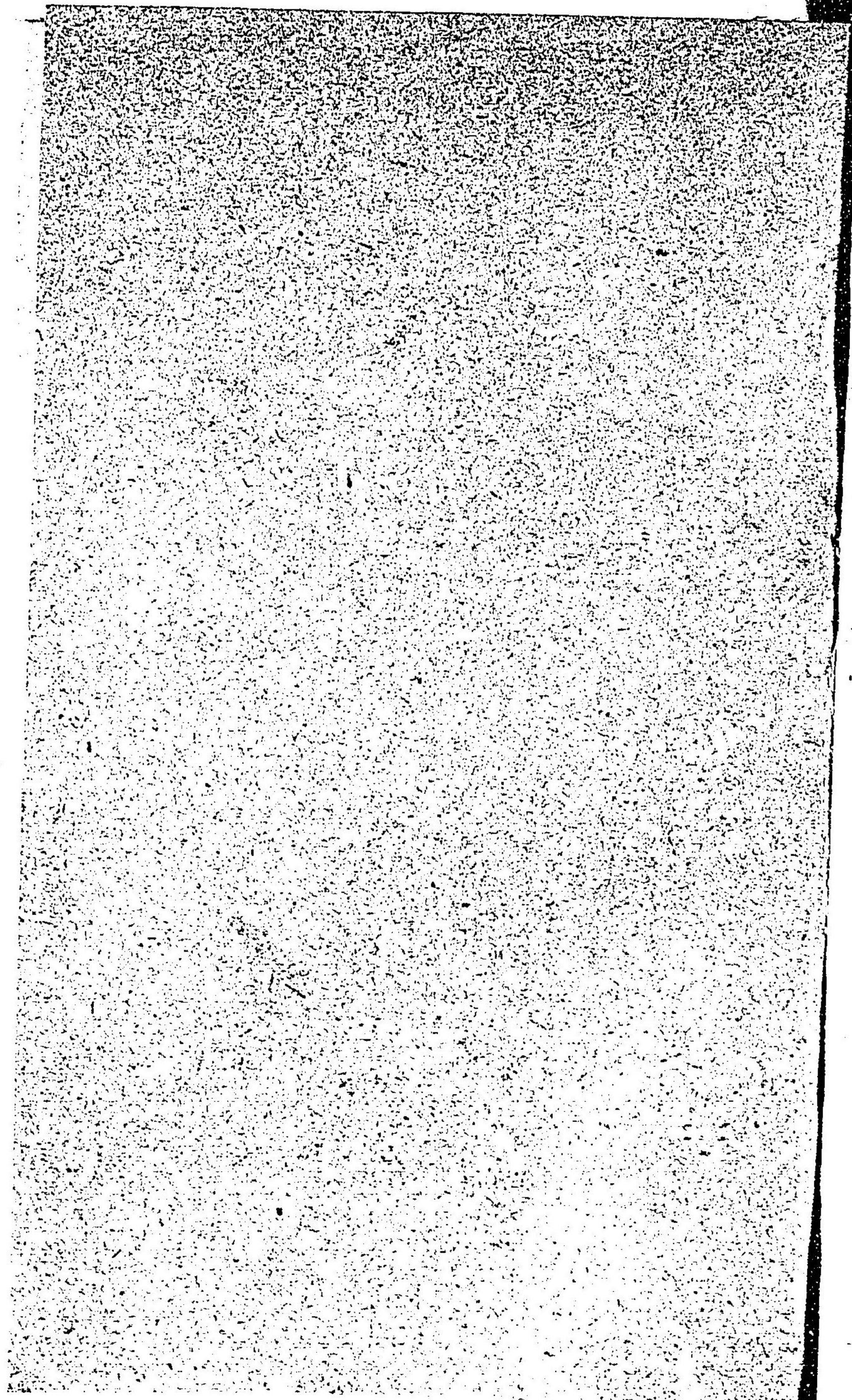
定價金四錢

○登記法義解

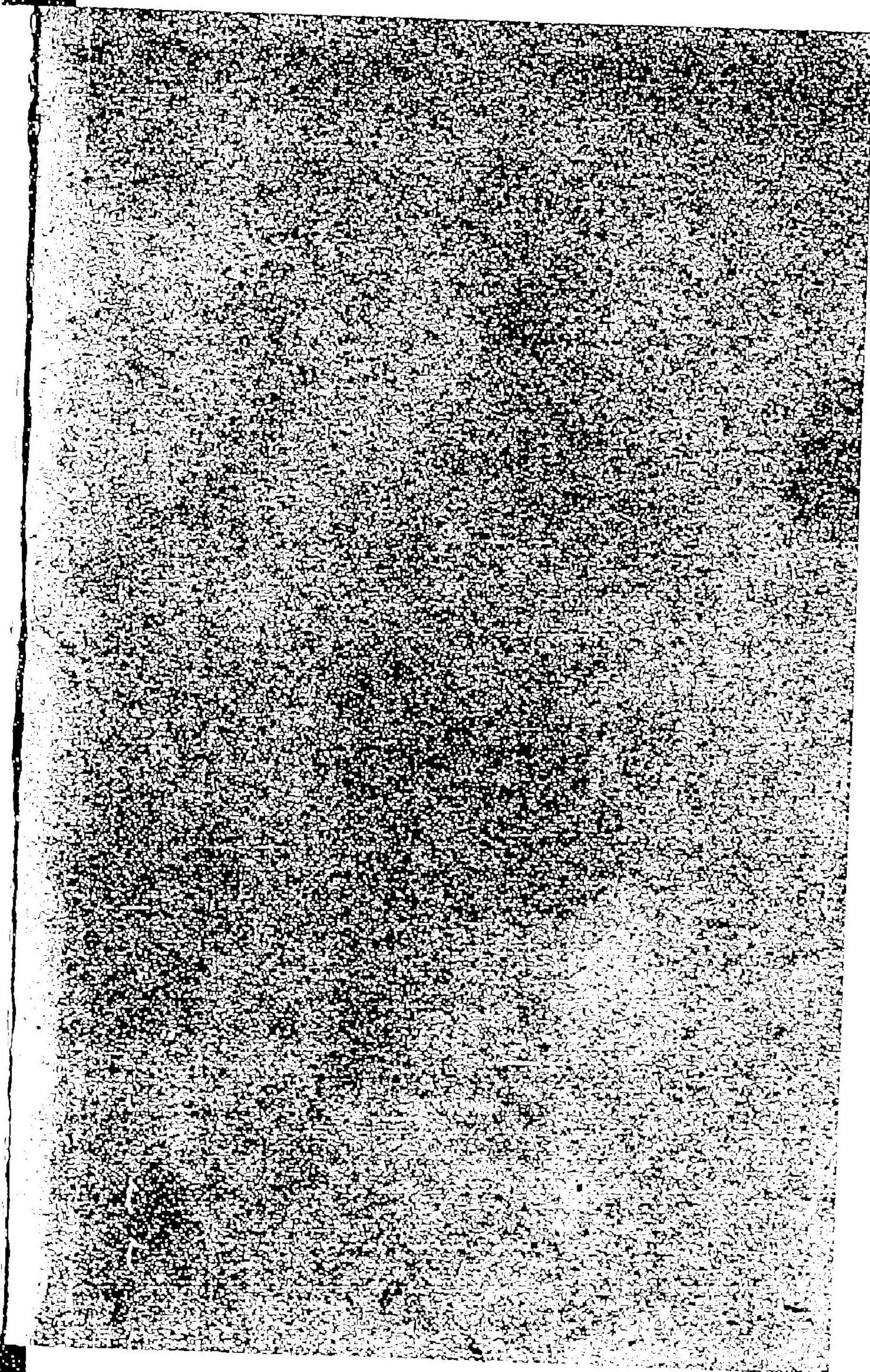
洋製全壹冊

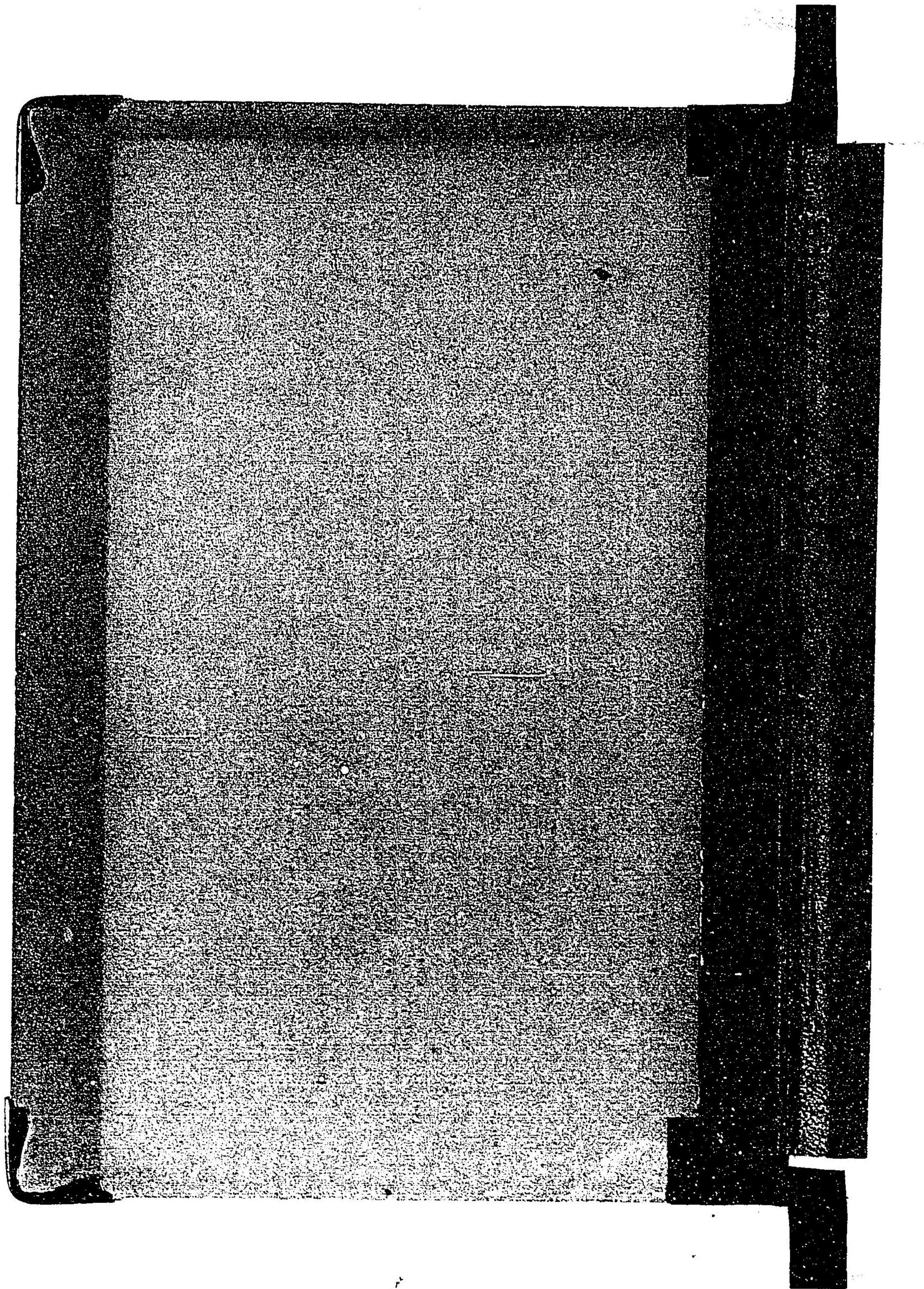
定價金十五錢

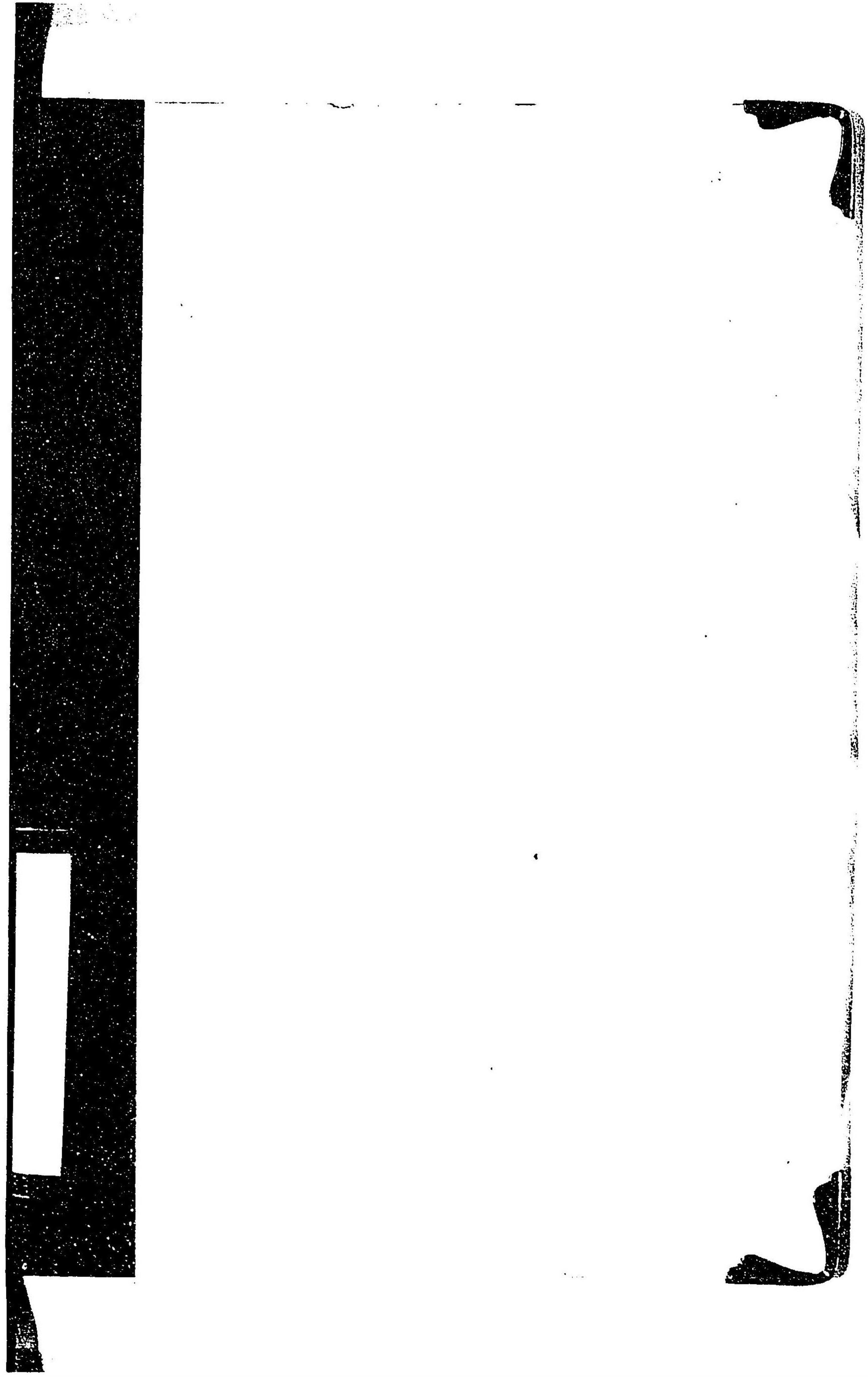




法律部  
29.10.2 9  
議查立法考查局







323.3

Ka299d

大日本帝国憲法

国立国会図書館

031646-000-5

323.3-Ka299d

大日本帝国憲法・各国憲法対照比論

神山 亨太郎／編

M22

BBE-0273



